

Ⅳ 主食用米以外（輸出を含む）

1 29年産米の作付状況

- 平成29年産米の作付面積は、主食用米が137.0万ha、主食用米以外が約23万ha。
- 主食用米以外の取組は、新規需要米14.3万ha、加工用米5.2万ha、備蓄米3.5万ha。

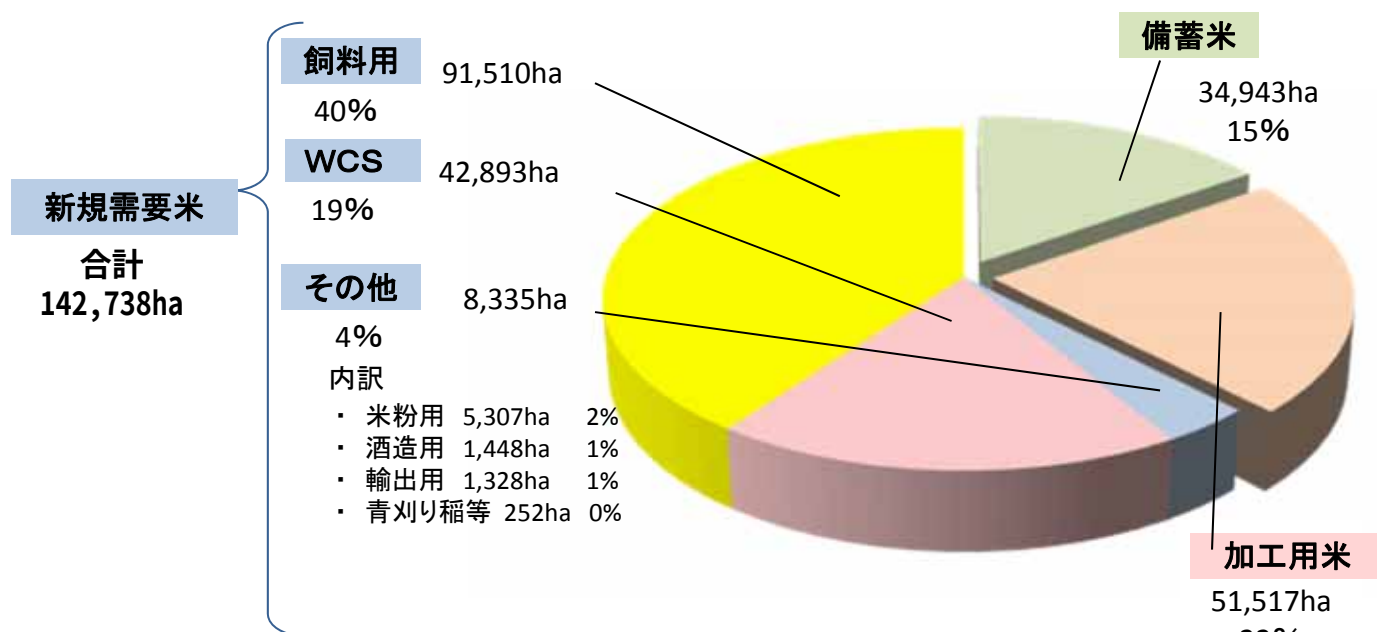
（1）29年産米の用途別作付面積及び生産量

	計	主食用米	新規需要米	加工用米	備蓄米
作付面積（万ha）	160.0	137.0	14.3	5.2	3.5
生産量（万トン）		731	53	28	20

※主食用米の生産量は、計画生産量である

※WCS、青刈り等専用稲は生産量に計上していない

（2）主食用米以外の取組状況（作付面積及び作付面積比率）



資料：新規需要米の作付面積は、農林水産省「新規需要米の取組計画認定状況」の値。

加工用米の作付面積は、需給調整カウントとなる加工用米の取組として認定を受けた平成29年9月15日現在の値。

備蓄米作付面積は、都道府県農業再生協議会からの28年度報告値。

注1：需給調整カウントとなる新規需要米の取組として認定を受けた平成29年9月15日現在の値。

注2：「酒造用」は「需要に応じた米生産の推進に関する要領」に基づき生産数量目標の枠外で生産された玄米を指す。

（3）新規需要米の用途別認定状況

		新規需要米（29年産）						
		飼料用	米粉用	輸出用	酒造用	稲発酵粗飼料稲	青刈り稲等	その他
作付面積（ha）	142,738	91,510	5,307	1,328	1,448	42,893	241	11
計画生産量（ト）	526,461	483,325	28,331	7,349	7,424			31

資料：農林水産省「新規需要米の取組計画認定状況」。

注1：需給調整カウントとなる新規需要米の取組として認定を受けた平成29年9月15日現在の値。

注2：「酒造用」は「需要に応じた米生産の推進に関する要領」に基づき生産数量目標の枠外で生産された玄米を指す。

注3：ラウンドの関係で合計と内訳が一致しない場合がある。

2 加工用米及び新規需要米の取組状況概要

- ・ 清酒、米菓、米穀粉などの原料として使用される米穀の平成27米穀年度における使用量は対前年と同程度の約95万トン程度（推計）。
- ・ 種類別には、うるち米が約77万トン、もち米が約19万トン。制度別には、主食用米、加工用米及び特定米穀などの国産米が約8割。残りの約2割はMA米及び輸入米粉調製品の外国産米。
- ・ 加工用米の生産量及び特定米穀の流通量が増加し、国産原料米を調達しやすい環境にあったことから、味噌を中心に、外国産原料からの転換が進んだところ。

27米穀年度（平成26年11月～27年10月）における加工原材料用米穀の使用状況（推計）

＜うるち米＞		（単位：万トン）					
制 度 用 途	主食用米	加工用米	新規需要米 (米粉用米)	特定米穀	MA米	輸入米粉調製品	うるち米計
清酒用	12 (9)	10		3			25 (9)
米菓用	1	2		7	2	1	13
加工米飯用 (無菌包装米飯除く)	5	5					10
味噌用		1		7	1		9
焼酎用 (泡盛含む)		1		5	2		8
米穀粉用		1	2	2	2	1	8
その他用	1			2	1		4
合計	18	22	2	24	9	2	77

＜もち米＞		（単位：万トン）					
制 度 用 途	主食用米	加工用米	新規需要米 (米粉用米)	特定米穀	MA米	輸入米粉調製品	もち米計
包装もち用	3	2				2	7
米菓用	2	1		1	1	2	6
米穀粉用	1					1	3
加工米飯用 (無菌包装米飯除く)	1						1
その他用						1	2
合計	7	4		1	1	6	19

注1： 清酒用の（ ）書きは、酒造好適米で内数。

2： 加工米飯用は、レトルト米飯用、冷凍米飯用などとして使用される原料米の使用量であり、無菌包装米飯用として使用される原料米約7万トンを含んでいない。

3： 焼酎は単式蒸留しょうちゅう（穀類又はいも類、これらの麴等及び水を原料として発酵させたアルコール含有物を単式蒸留機により蒸留したアルコール度数が45度以下のもの（酒税法第3条第10号））であり、泡盛用として使用される原料米を含んでいる。

4： その他用には、玄米茶用、みりん用、朝食シリアル用などがある。

5： 特定米穀とは、水稻収穫量調査で使用するふるい目1.7mmと農家が出荷の際に使用する1.75～1.9mmの間の「ふるい下米」と、1.7mm未満の小さな粒の米（一般的に「くず米」と呼ばれているもの）の総称。

6： ラウンドの関係で合計と内訳が一致しない場合がある。

【推計根拠】

1 用途別の原料米使用量合計は、加工団体等からの聞き取りのほか、以下のデータにより推計。

清酒用・・・「清酒の製造状況等について」（国税庁）

焼酎用・・・「課税移出数量」（国税庁）、米菓用、米穀粉用、加工米飯用、味噌用、包装もち用

その他用・・・「食品産業動態調査」（農林水産省）による生産量等

2 制度別の使用状況は、加工団体等からの聞き取りのほか、以下のデータにより推計。

主食用米・・・全国出荷団体等からの聞き取り。なお、酒造好適米は「農産物検査結果」（農林水産省）、

加工用米・・・「需要に応じた米生産の推進に関する要領」（農林水産省）に基づく報告

新規需要米（米粉用米）・・・「食品産業動態調査」（農林水産省）による生産量

MA米（SBS含む）・・・「販売実績」（農林水産省）

輸入米粉調製品・・・「貿易統計」（財務省）

特定米穀・・・1で推計した用途別原料米使用量から主食用米、加工用米、新規需要米（米粉用米）、MA米及び輸入米粉調製品を差し引いた数量

3 飼料用米の需要量

- 畜産側の平成29年産に係る飼料用米の需要量は、約120万トン。
 - ① 全農グループ飼料会社：年間約56万トン（米使用可能数量約82万トンのうちMA米・備蓄米含まない数量）
 - ② （協）日本飼料工業会組合員工場：年間約44万トン～61万トン（MA米・備蓄米を含まない数量）
 - ③ 全国酪農農業協同組合連合会の年間使用可能数量は、約1万トン（MA米、備蓄米を含む数量）
 - ④ 日本養鶏連の年間使用量は、約4万トン（MA米、備蓄米を含む数量）
 - ⑤ 畜産農家の新規需要量：76件、約2万トン（平成29年6月30日現在の報告分。追加情報は随時更新）
- 上記の地域別内訳、問い合わせ先は以下のとおり。

① 全農グループ飼料会社の飼料用米の使用可能数量（平成29年3月現在）

地区	年間使用可能数量 (千トン)	備 考
北海道	88	ホクレンくみあい飼料
東北	217	J A 全農北日本くみあい飼料
関東	146	J A 東日本くみあい飼料・科学飼料研究所
北陸	30	J A 東日本くみあい飼料
東海	46	//
近畿・中国	46	J A 西日本くみあい飼料
四国	32	//
北九州	49	ジェイエイ北九州くみあい飼料
南九州	162	南日本くみあい飼料・科学飼料研究所
合 計	817	

※使用可能数量は、MA米、備蓄米を含み、製造工程・能力から試算した数量。

※実際の使用にあたっては、搬入方法等により制限される可能性がある。

※問い合わせ先：JA全農 耕種総合対策部飼料用米対策課 TEL:03-6271-8279

② 日本飼料工業会組合員の工場の飼料用米需要量見込み（平成28年11月調査）

地 区	需要量 (千トン：単年度)	備 考
北海道	19～36	
東北	114～155	
関東	109～115	
中部	44～49	
関西	56～82	
九州	88～177	
合 計	436～608	

注1) 輸入トウモロコシ価格以下であることが前提、価格水準により需要量は変動する。

注2) 上記の需要量には、MA米、備蓄米は含まない。

注3) 四捨五入の関係で計が一致しない場合がある。

※(協)日本飼料工業会は「飼料用米ダイヤル」を設置し、飼料用米を生産して売りたい産地の生産者や集荷業者、JA、飼料用米を使用したい傘下の全国の飼料メーカー（工場）との仲介を実施。

※問い合わせ先：「飼料用米ダイヤル」TEL:03-3583-8031 E-mail:Esamai@jafma.or.jp

③ 全国酪農農業協同組合連合会の飼料用米の使用可能数量（平成29年2月現在）

地区	年間使用可能数量 もしくは需要量 (千トン)	備考
北海道	9.8	政府所有米穀(MA米)使用
東北	2.0	政府所有米穀(備蓄米)と新規需要米併用
関東	1.2	政府所有米穀(備蓄米)と新規需要米併用
中部	0.4	新規需要米使用
関西	1.0	政府所有米穀(MA米)と新規需要米併用
九州	0.0	原料タンクの調整が必要
合 計	14.4	

※使用可能数量は、MA米、備蓄米を含み、製造工程・能力から試算した数量。

※実際の使用にあたっては、搬入方法等によっては制限される可能性がある。

※輸入トウモロコシ価格以下であることが前提の需要量

※四捨五入の関係で計が一致しない場合がある。

※問い合わせ先：全国酪農農業協同組合連合会 購買部飼料製造課 TEL:03-5931-8007

④ 日本養鶏連の飼料用米の使用可数量（平成29年2月現在）

地区	年間使用可能数量 もしくは需要量 (千トン：単年度)	備考
北海道	0.0	
東北	0.5	*粳米、不可
関東	1.5	
北陸	0.0	
東海	1.2	
近畿・中国	6.0	*粳米、不可
四国	0.0	
九州	26.0	*一部、粳米不可
合 計	35.2	

※使用可能数量は、MA米、備蓄米を含み、製造工程・能力から試算した数量。

※実際の使用にあたっては、搬入方法等によっては制限される可能性がある。

※輸入トウモロコシ価格以下であることが前提の需要量

※四捨五入の関係で計が一致しない場合がある。

※問い合わせ先：日本養鶏連 事業部 TEL:03-5296-7041

⑤ 畜産農家の平成29年産飼料用米の新規需要量（平成29年6月30日現在）

都道府県	新規需要量		うち確保済み	
	件数	数量（トン）	件数	数量（トン）
北海道	1	未定		
宮城県	1	2,400		
岩手県	4	3,000	2	2,850
茨城県	2	40		
群馬県	4	113	1	1
埼玉県	1	40		
千葉県	6	2,103	0	227
山梨県	12	430		
長野県	8	1,307	7	757
静岡県	1	5		
愛知県	4	370	4	370
大阪府	3	14		
奈良県	5	1,610	2	380
広島県	1	1		
香川県	4	110		
福岡県	4	219		
長崎県	9	1		
大分県	2	2,100	0	60
宮崎県	2	2,425		
鹿児島県	2	2,000		
合計	76	18,288	16	4,645

※供給先が確保されていない新たな需要及びマッチング状況について、都道府県から報告のあった件数・数量を記載

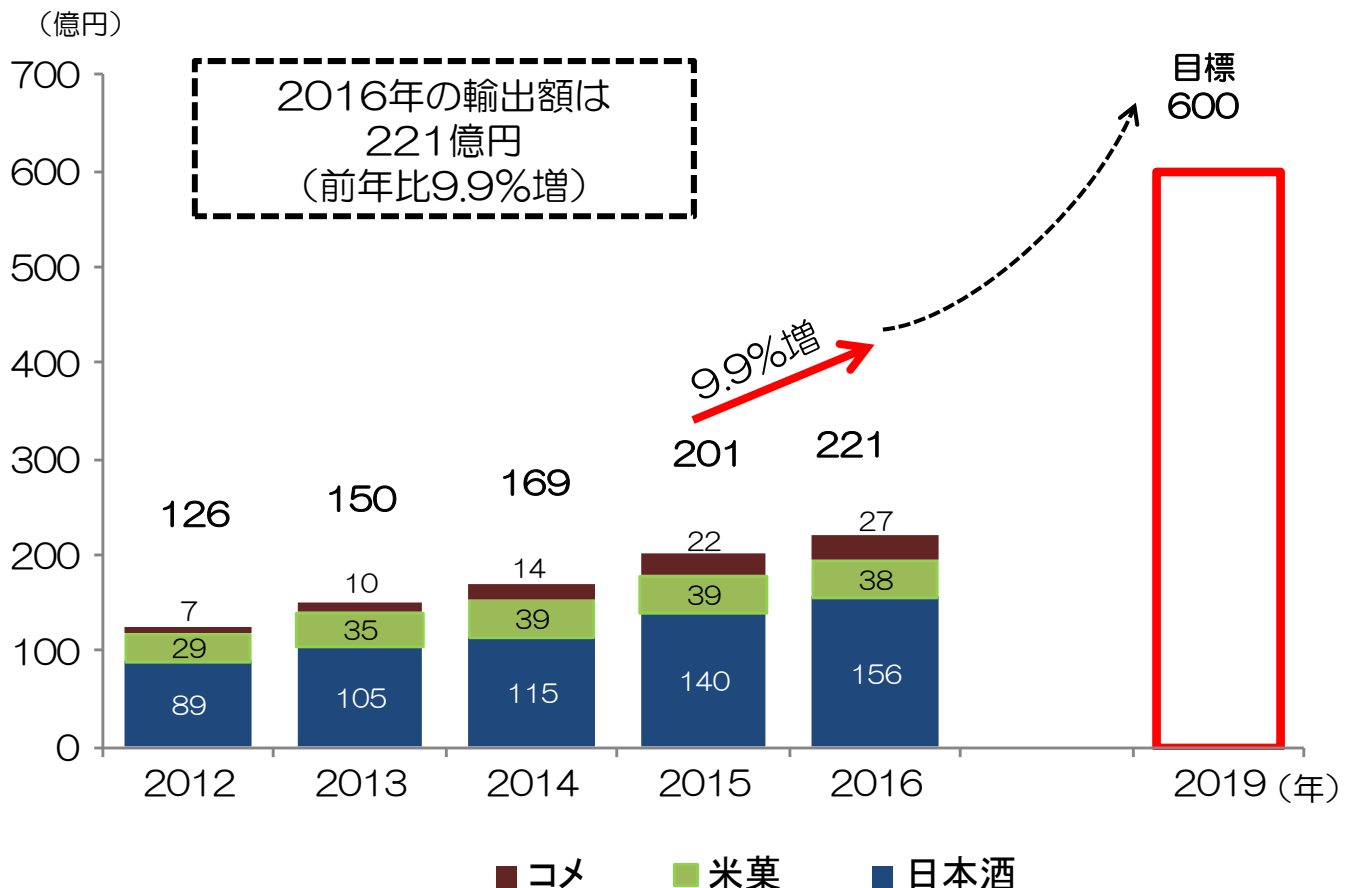
※一部確保済みの場合、件数0と記載

※問い合わせ先：生産局畜産部飼料課 TEL：03-3502-5993

4 コメ・コメ加工品の輸出量及び輸出金額について

- 「農林水産物・食品の国別・品目別輸出戦略」（平成25年8月決定）の中で、コメ・コメ加工品の輸出額を2020年（平成32年）までに600億円とすることが決定。
- 2020年（平成32年）の輸出額1兆円目標について、「未来への投資を実現する経済対策」（平成28年8月決定）において、平成31年に1年前倒しすることとされ、オールジャパンでの輸出拡大を推進。
- 2016年の輸出額は、221億円（前年比9.9%増）。

コメ・コメ加工品の輸出状況



コメ・コメ加工品の輸出量及び輸出金額

	日本酒		米菓		コメ	
	数量 キロリットル	金額 百万円	数量 トン	金額 百万円	数量 トン	金額 百万円
2012年	14,131	8,946	3,123	2,902	2,202	726
2013年	16,202	10,524	3,606	3,487	3,121	1,030
2014年	16,314	11,507	4,012	3,944	4,516	1,428
2015年	18,180	14,011	3,679	3,869	7,640	2,234
2016年	19,737	15,581	3,567	3,808	9,986	2,709

資料：財務省「貿易統計」（政府による食料援助を除く。）
注：数量1トン未満、金額20万円未満は計上されていない。

5 コメ・コメ加工品の輸出をめぐる状況と対応方向について

2020年に向けた輸出額目標

「農林水産物・食品の国別・品目別輸出戦略」（平成25年8月決定）の中で、コメ・コメ加工品の輸出額を、平成32年までに600億円とすることとしている。

輸出拡大に向けた対応方向

コメ・コメ関連食品の輸出拡大のため、精米だけでなく、包装米飯・日本酒・米菓も含めたコメ加工品の輸出に力を入れることとしている。

【コメ（包装米飯含む）】

現地での精米の取組や炊飯ロボットと合わせた外食への販売など、日本米のプレゼンスを高める取組を推進。

★重点国

新興市場：台湾、豪州、EU、ロシア、中国、米国等

安定市場：香港、シンガポール



【米菓】

相手国のニーズに合った商品の開発、手軽なスナックとしてのプロモーション強化。

★重点国

新興市場：中東、中国、EU

安定市場：台湾、香港、シンガポール、米国



【日本酒】

発信力の高い都市や重点市場でのイベント・事業を実施するほか、セミナー等を通じて、日本酒の良さについて普及。日本酒の生産増に対応した酒造好適米の増産が可能となるよう措置。

★重点国

新興市場：EU、台湾、中国、ブラジル、ロシア、韓国

安定市場：米国、香港



輸出拡大に向けた取組

コメ・コメ関連食品の輸出拡大のため、他の品目に先がけて、オールジャパンでコメ・コメ関連食品の輸出を促進する全国団体（全日本コメ・コメ関連食品輸出促進協議会）を平成26年11月27日に立ち上げ、統一ロゴマークの開発・発表、海外でのPRイベント等を開催。

〈日本産米輸出の統一ロゴマーク〉



THIS IS
JAPAN QUALITY
日本のおいしい米。



（注）QRコードから、日本産米のPR映像が流れるHPへリンク

V 支援事業等

(1) 水田活用の直接支払交付金

- 水田で麦、大豆、飼料用米、米粉用米等の作物を生産する農業者に対して交付金を直接交付することにより、水田のフル活用を推進し、食料自給率・自給力を向上。

水田活用の直接支払交付金(1)

【平成30年度予算概算要求額:3,304(3,150)億円】

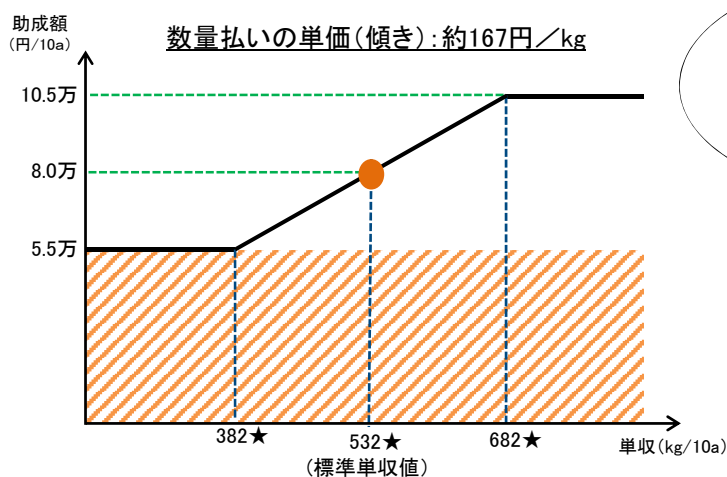
(1) 支援内容

① 戦略作物助成

対象作物	交付単価
麦、大豆、飼料作物	3.5万円／10a
WCS用稲	8.0万円／10a
加工用米	2.0万円／10a
飼料用米、米粉用米	収量に応じ、 5.5万円～10.5万円／10a

※ 子実用とうもろこし(飼料用)を含む

<飼料用米、米粉用米の交付単価のイメージ>



収量が上がるほど交付金額が増えるのかぁ・・・
努力が報われる仕組みだね！



- 数量払いによる助成については、農産物検査機関による数量確認を受けていることを条件とします。
- ★は全国平均の平年単収（標準単収値）に基づく数値であり、各地域への適用に当たっては、市町村等が当該地域に応じて定めている単収（配分単収）を適用します。なお、各地域における標準単収値を当年産の作柄（作柄表示地帯別）に応じて調整します。

<標準単収値の作柄調整の考え方>

$$\text{標準単収値} = \text{配分単収} \times \frac{\text{当年産のふるい目1.70mm以上の10アール当たり収量}}{\text{ふるい目1.70mm以上の10アール当たり平年収量}}$$

(小数点以下切り上げ)

水田活用の直接支払交付金(2)

② 産地交付金

- 地域の作物振興の設計図となる「水田フル活用ビジョン」に基づき、高付加価値化や低コスト化を図りながら、地域の特色のある魅力的な産品の産地を創造するため、地域の裁量で活用可能な産地交付金により、二毛作や耕畜連携を含め、産地づくりに向けた取組を支援
- また、取組に応じた配分(下表参照)を都道府県に対して行う

対象作物	取組内容	配分単価
飼料用米、米粉用米	多収品種への取組	1.2万円/10a
加工用米	複数年契約(3年間)の取組 ※継続分のみ。	1.2万円/10a
そば、なたね	作付の取組 ※基幹作のみ。	2.0万円/10a

上記のほか、以下の取組に応じた配分を都道府県に対して行う

- ① 転換作物拡大(1.0万円/10a)
前年度実績よりも転換作物が拡大し、主食用米の作付面積が減少した場合に、その面積に応じて配分
- ② コメの新市場開拓(2.0万円/10a)
内外の新市場の開拓を図る米穀の作付面積に応じて配分
- ③ 畑地化(10.5万円/10a)
水田の畑地化面積(交付対象水田からの除外面積)に応じて配分

水田活用の直接支払交付金の支払面積等(1)

- ・支払対象者数は45万7千件で、平成27年度の支払実績と比べて2万1千件減少。
- ・支払面積は、戦略作物全体では57万8千haと、平成27年度に比べて2万4千ha増加。
- ・作物別には、
 - (ア) 麦は、北海道、九州地方を中心に作付けがやや増加し、2千ha増の17万2千ha
 - (イ) 大豆は、北海道、東北、北陸地方及び熊本県で作付けが増加し、3千ha増の11万6千ha
 - (ウ) 飼料作物は、東北、九州地方を中心に作付けがやや増加、2千ha増の10万5千ha。
 - (エ) 新規需要米（WCS用稲、米粉用米、飼料用米）は、主食用米からの転換が全国的に進み、米粉用米を除いて作付けが増加、1万4千ha増の13万5千ha。
 - (オ) 加工用米は、4千ha増の5万ha。

(1) 水田活用の直接支払交付金の支払対象者数

	支払対象者数 (件)	個人	法人	集落営農
平成28年度	457,225	440,118	11,037	6,070
平成27年度	478,293	461,858	9,931	6,504
対前年度比較	▲ 21,068	▲ 21,740	+ 1,106	▲ 434

(2) 水田活用の直接支払交付金における戦略作物の支払面積

① 基幹作物＋二毛作物

(単位:ha)

	麦	大豆	飼料作物	新規 需要米	WCS用稲			加工用米	合計	(参考)		
					WCS用稲	米粉用米	飼料用米			そば	なたね	備蓄米
平成28年度	172,305	115,734	104,943	135,371	41,106	3,501	90,764	49,981	578,334	35,551	792	39,333
平成27年度	170,590	113,016	103,234	121,533	37,860	4,206	79,467	46,157	554,529	34,125	585	43,771
対前年度比較	+ 1,715	+ 2,718	+ 1,709	+ 13,839	+ 3,246	▲ 705	+ 11,298	+ 3,824	+ 23,805	+ 1,426	+ 207	▲ 4,438

② 基幹作物

(単位:ha)

	麦	大豆	飼料作物	新規 需要米	WCS用稲			加工用米	合計	(参考)	
					WCS用稲	米粉用米	飼料用米			そば	なたね
平成28年度	99,365	87,941	72,441	135,370	41,105	3,501	90,764	47,817	442,935	26,038	649
平成27年度	98,950	85,805	72,176	121,528	37,860	4,206	79,462	44,098	422,556	25,019	471
対前年度比較	+ 416	+ 2,136	+ 265	+ 13,843	+ 3,246	▲ 705	+ 11,302	+ 3,719	+ 20,379	+ 1,019	+ 178

③ 二毛作物

(単位:ha)

	麦	大豆	飼料作物	新規 需要米	WCS用稲			加工用米	合計	(参考)	
					WCS用稲	米粉用米	飼料用米			そば	なたね
平成28年度	72,939	27,793	32,502	1	1	—	0	2,165	135,399	9,513	142
平成27年度	71,640	27,211	31,057	5	—	—	5	2,059	131,973	9,106	114
対前年度比較	+ 1,299	+ 582	+ 1,445	▲ 4	+ 1	—	▲ 5	+ 105	+ 3,427	+ 407	+ 29

水田活用の直接支払交付金の支払面積等(2)

- 平成26年度から導入した米粉用米及び飼料用米の数量払い分の対象面積、数量、平均単収については、
 - (ア) 米粉用米では、3千5百ha（7百ha減）、1万9千トン（4千トン減）542kg/10a。
 - (イ) 飼料用米では、8万9千ha（1万1千ha増）、49万6千トン（6万4千トン増）、558kg/10a。

(3) 米粉用米、飼料用米(数量払い分)の支払面積、支払数量、平均単収

	米粉用米			飼料用米		
	面積(ha)	数量(t)	単収(kg/10a)	面積(ha)	数量(t)	単収(kg/10a)
平成28年度	3,487	18,896	542	88,900	496,017	558
平成27年度	4,180	22,519	539	77,731	431,696	555
対前年度比較	▲ 693	▲ 3,623	+ 3	+ 11,168	+ 64,321	+ 3

注) 飼料用米等の数量払いは平成26年度から実施している。面積は、数量払いで交付した面積であるため、前記戦略作物の支払面積と異なっている。数量は、農産物検査機関による数量確認を受けた数量、単収は上記「数量」/「面積」により算定。
数量払いの実績には、農産物検査を受けていない取組及び飼料用米を生もみで出荷又は利用する取組の面積及び数量は含まない。

(4) 耕畜連携助成の支払面積

(単位:ha)

	飼料用米 のわら 利用	水田放牧	資源循環 の取組	合計
平成28年度	23,055	1,298	28,208	52,560
平成27年度	19,866	1,299	25,636	46,800
対前年度比較	+ 3,189	▲ 1	+ 2,572	+ 5,760

米の直接支払交付金の支払面積等

- 支払対象者数は77万8千件で、平成27年度に比べて4万2千件減少。
- 支払面積は94万4千ha（10a控除前：102万6千ha）で、平成27年度に比べて9千ha減少。

(5) 米の直接支払交付金の支払対象者数、支払面積

	支払対象者数 (件)				支払面積 (ha)	(参考)
		個人	法人	集落営農		支払面積 10a控除前 (ha)
平成28年度	778,026	765,175	8,651	4,200	943,757	1,026,079
平成27年度	820,373	808,023	7,806	4,544	953,064	1,039,251
対前年度比較	▲ 42,347	▲ 42,848	+ 845	▲ 344	▲ 9,307	▲ 13,172

(2) 畑作物の直接支払交付金（ゲタ対策）

- ・ 諸外国との生産条件の格差により不利がある国産農産物（麦、大豆等）について、引き続き生産コストと販売額の差に相当する額を直接交付。

畑作物の直接支払交付金（ゲタ対策）

【平成30年度予算概算要求額： 1,984(1,950)億円】

(1) 支援内容（数量払）

① 麦類

品質区分 (等級/ランク)	1等				2等			
	A	B	C	D	A	B	C	D
小麦 (ハヅ・中華麵用品種:60kg当たり)	8,990円	8,490円	8,340円	8,280円	7,830円	7,330円	7,180円	7,120円
小麦 (上記品種以外:60kg当たり)	6,690円	6,190円	6,040円	5,980円	5,530円	5,030円	4,880円	4,820円
二条大麦 (50kg当たり)	5,520円	5,100円	4,980円	4,930円	4,660円	4,240円	4,110円	4,060円
六条大麦 (50kg当たり)	6,000円	5,580円	5,450円	5,400円	4,970円	4,550円	4,430円	4,380円
はだか麦 (60kg当たり)	8,610円	8,110円	7,960円	7,870円	7,040円	6,540円	6,390円	6,310円

等級:被害粒の割合や粒揃いの違いで区分。A～Dランク:たんばく質の含有率等の違いで区分

② 大豆

品質区分(等級)	1等	2等	3等
普通大豆(60kg当たり)	9,940円	9,250円	8,570円
特定加工用大豆(60kg当たり)	7,890円		

特定加工用:豆腐・油揚げ、しょうゆ、きなこ等製品の段階において、大豆の原形をとどめない用途に使用する大豆

③ そば

品質区分(等級)	1等	2等
45kg当たり	17,470円	15,360円

等級:容積重の違いや被害粒の割合で区分

④ なたね

品質区分(品種)	キザキノナタネ キラリボシ ナナシキブ	その他の 品種
60kg当たり	9,940円	9,200円

⑤ てん菜

品質区分(糖度)	← (+0.1度)	16.3度	→ (▲0.1度)
1t当たり	+ 62円	7,180円	▲ 62円

糖度:てん菜の重量に対するショ糖の含有量

⑥ でん粉原料用ばれいしょ

品質区分 (でん粉含有率)	← (+0.1%)	19.5%	→ (▲0.1%)
1t当たり	+ 64円	11,610円	▲ 64円

でん粉含有率:ばれいしょの重量に対するでん粉の含有量

(2) 支援内容（面積払（営農継続支払））

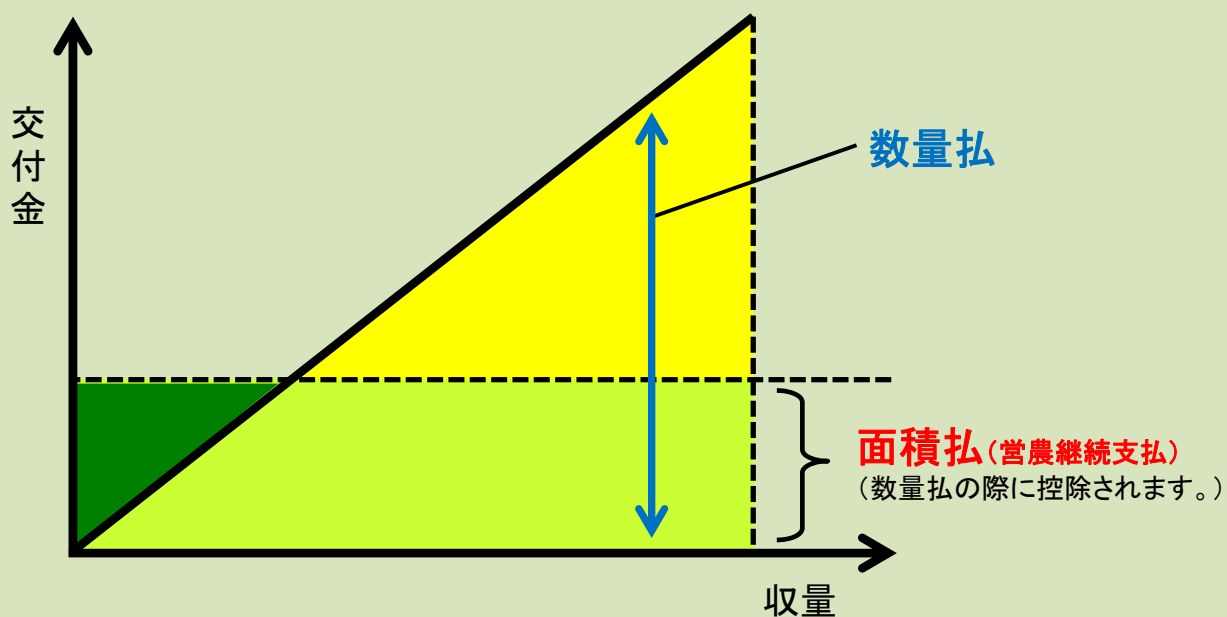
① 交付対象面積

当年産の作付面積に応じて交付

② 交付単価

10a当たり2万円
※「そば」は、10aあたり1万3千円

③ 数量払と面積払（営農継続支払）の関係



交付対象者

※ 交付対象者に変更ありません。

認定農業者、集落営農、認定新規就農者
（いずれも規模要件は課しません。）

対象作物

麦、大豆、そば、なたね
てん菜、でん粉原料用ばれいしょ（北海道産のみ）
（ビール用麦、黒大豆、種子用として生産されるものなどは対象外）

(3) 米・畑作物の収入減少影響緩和対策（ナラシ対策）

米・畑作物の収入減少影響緩和対策（ナラシ対策）

【平成30年度予算概算要求額：816（746）億円（所要額）】

米・畑作物の収入減少影響緩和対策（ナラシ対策）は、農家抛出を伴う経営に着目したセーフティーネットであり、米及び畑作物の農業収入全体の減少による影響を緩和するための保険的制度です。

(1) 交付対象者

支援の対象となる農業者は、認定農業者、集落営農、認定新規就農者です（いずれも規模要件はありません）。

※ 集落営農の要件は、2要件（組織の規約の作成、対象作物の共同販売経理の実施）に緩和し、「農業経営の法人化」及び「地域における農地利用の集積」については、市町村が確実に行われると判断するものとします。

(2) 対象農産物

米、麦、大豆、てん菜、でん粉原料用ばれいしょです。

※1 ビール麦、黒大豆、種子用として生産されるものなどは対象となりません。

※2 てん菜、でん粉原料用ばれいしょは、北海道で生産されるものが対象です。

【10a当たり標準的収入額とは】

通常年に想定される収入額として、前年産以前5カ年の収入額のうち、最高年と最低年を除いた3カ年の平均収入額で、品目ごと、地域ごとに計算しています。各年産の収入額は、米であれば、地域の産地品種銘柄のうち、数量の多い上位3銘柄平均販売価格に、地域の実単収を乗じて算出します。

【10a当たり当年産収入額とは】

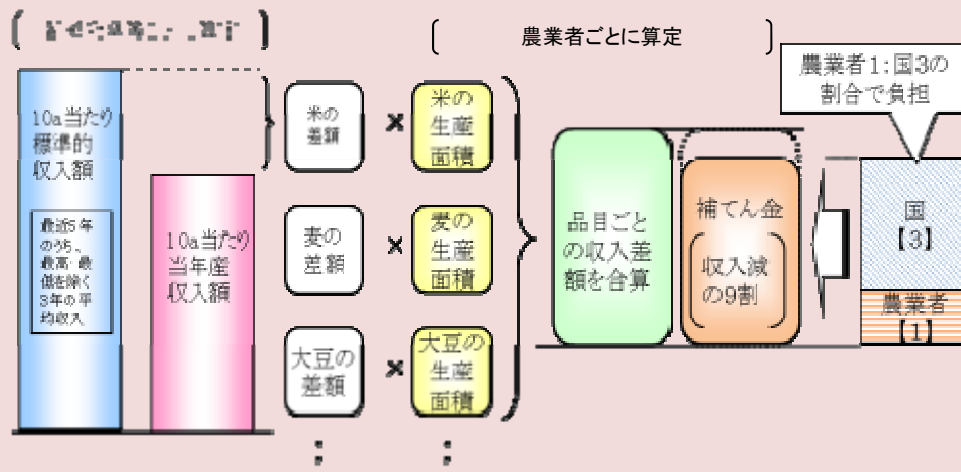
当年産の収入額として、品目ごと、地域ごとに計算しています。当年産の収入額は、米であれば、当年産の地域の産地品種銘柄のうち、数量の多い上位3銘柄平均販売価格に、当年産の地域の実単収を乗じて算出します。

(3) ナラシ対策の仕組み

- 農業者の米、麦、大豆等の当年産の販売収入の合計（当年産収入額）が、標準的収入額を下回った場合に、その差額の9割を補てんします。

$$\text{補てん額} = (\text{標準的収入額} - \text{当年産収入額}) \times 0.9$$

- 補てんの財源は、農業者と国が1対3の割合で負担します。
- このため、補てんを受けるには、農業者からの積立金の抛出が必要となります。
- 補てん後の積立金の残額は、翌年産へ繰り越されるため、掛け捨てとはなりません。



(参考) 平成28年産ナラシ対策の支払い実績 (平成29年8月31日現在)

全 国 都 道 府 県			加入件数 (件)	支払件数 (件)	補てん総額 (億円)	(参考1) ※ 米の10a当たり 補てん単価 (円/10a)	(参考2) ※ 米加入面積10haの 場合の補てん額の推計 (万円)
全 国			106,991	57,064	178.65		
北 海 道			19,529	14,857	100.47	0	0
東 北	青 森 県		5,082	24	0.02	0	0
	岩 手 県		3,329	3,125	4.73	3,010	30
	宮 城 県		4,291	4,102	5.89	386	3
	秋 田 県		8,602	188	0.32	0	0
	山 形 県		7,597	1	0.00	0	0
	福 島 県		4,878	4,717	0.48	149	1
関 東	茨 城 県		3,140	2,988	3.40	3,612	36
	栃 木 県		5,230	874	1.32	0	0
	群 馬 県		943	302	0.62	0	0
	埼 玉 県		1,252	1,193	0.70	886	8
	千 葉 県		1,088	1,064	0.46	713	7
	東 京 都		3	3	0.00	1,101	11
	神 奈 川 県		125	124	0.03	1,806	18
	山 梨 県		129	116	0.09	3,849	38
	長 野 県		1,429	1,351	3.10	2,989	29
	静 岡 県		326	321	0.78	3,099	30
北 陸	新 潟 県		12,546	4,140	4.58	0	0
	富 山 県		1,506	377	2.53	0	0
	石 川 県		1,783	1,672	0.93	567	5
	福 井 県		1,163	194	0.12	0	0
東 海	岐 阜 県		663	642	3.46	2,485	24
	愛 知 県		614	463	3.44	145	1
	三 重 県		919	446	2.07	0	0
近 畿	滋 賀 県		2,324	2,291	7.42	2,472	24
	京 都 府		325	298	0.14	1,297	12
	大 阪 府		31	30	0.00	270	2
	兵 庫 県		1,109	860	0.75	2,405	24
	奈 良 県		91	80	0.09	8,366	83
	和 歌 山 県		73	0	0.00	0	0
中 国 ・ 四 国	鳥 取 県		399	380	0.99	3,693	36
	島 根 県		719	98	0.20	0	0
	岡 山 県		858	50	0.15	0	0
	広 島 県		516	32	0.06	0	0
	山 口 県		827	769	0.80	538	5
	徳 島 県		160	10	0.01	0	0
	香 川 県		626	591	0.87	670	6
	愛 媛 県		628	601	0.98	4,151	41
	高 知 県		264	222	0.03	1,469	14
						0	0
九 州	福 岡 県		2,084	1,282	7.76	0	0
	佐 賀 県		1,573	1,538	14.14	4,380	43
	長 崎 県		753	698	0.20	62	0
	熊 本 県		3,422	1,586	2.31	0	0
	大 分 県		1,353	515	1.36	0	0
	宮 崎 県		1,702	1,512	0.77	2,073	20
沖 縄	鹿 児 島 県		887	337	0.10	0	0
						0	0

(注1) 加入件数は、平成28年7月31日時点(熊本県は9月末時点)の積立金納付者の件数である。

(注2) 支払件数及び補てん総額は、平成29年8月31日時点の数値である。

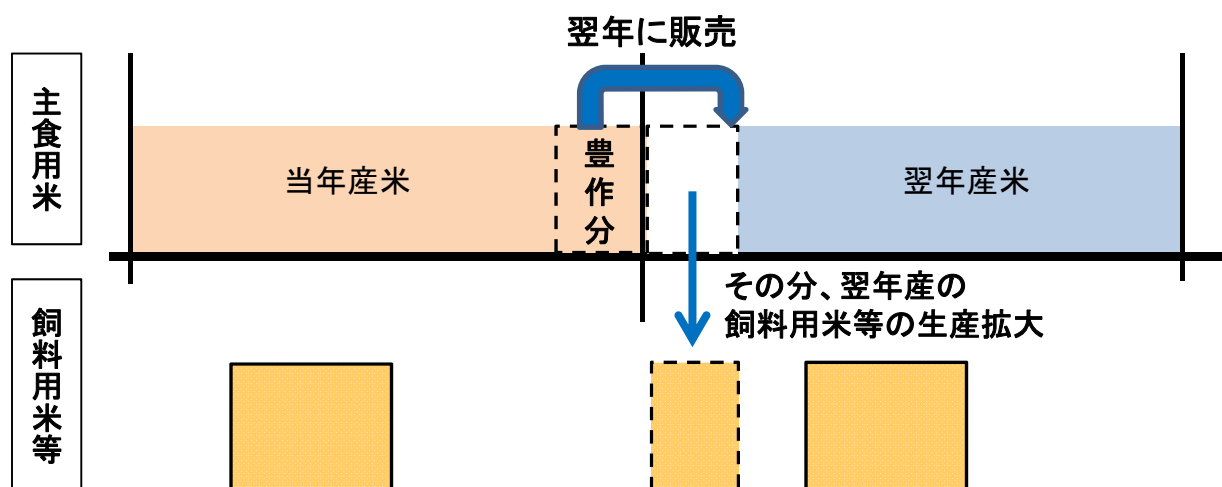
(注3) ラウンドの関係で合計数値は一致しない場合がある。

※ 米の10a当たり補てん単価及び米加入面積10haの場合の補てん額の推計は、20%コースの場合。米のみで試算したものであり、実際の支払では、麦・大豆等との合算相殺がある。また、(参考2)の米加入面積10haの場合の補てん額の推計は、表記上、1万円未満は切り捨てている。

(4) 主食用米の需給安定の考え方、米穀周年供給・需要拡大支援事業

① 主食用米の需給安定の考え方

- 「需要に応じた生産を行ってもなお、気象の影響等により、必要な場合」に主食用米を長期計画的に販売する取組や、輸出用など他用途への販売を行う取組等を自主的に実施するための支援措置として、「米穀周年供給・需要拡大支援事業」を実施。（米穀周年供給・需要拡大支援事業：30年度予算概算要求額50億円（対前年同額））
- 平成30年産に向けては、必要がある場合に、この支援措置を活用して、豊作分を翌年に回し、その分、水田活用の直接支払交付金を活用して、翌年産の飼料用米等の生産を拡大して、主食用米の供給を絞るといった取組を定着させ、主食用米の需給の安定を図っていくことが重要。
（水田活用の直接支払交付金：30年度予算概算要求額 3,304億円（対前年+154億円））



② 米穀周年供給・需要拡大支援事業のスキーム

- 業務用等の取引に関するマッチングセミナー・イベントの開催に対して支援。
- 産地の自主的な取組により、需要に応じた生産・販売が行われる環境整備を図る観点から、気象の影響等により必要が生じた場合には、産地の判断により、主食用米を長期計画的に販売する取組や輸出用など他用途への販売を行う取組等を自主的に実施する体制を構築していくことが必要。
- あらかじめ生産者等が積立てを行い、産地の取組を実施する場合に国も一定の支援。

全国事業

業務用等の取引に関するマッチングセミナー・イベントの開催支援(定額)

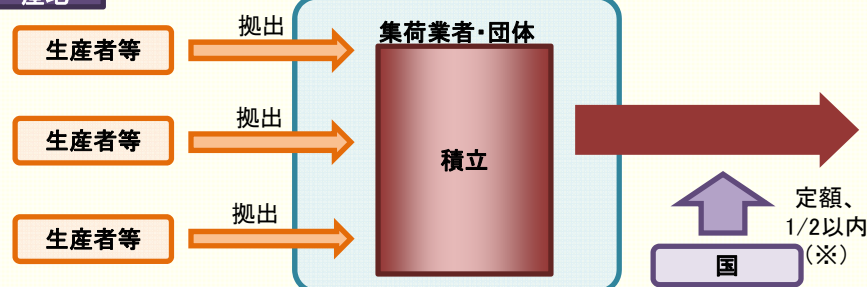
〔業務用米取引セミナー〕

〔展示商談会〕

民間団体が行う業務用米の生産・流通の拡大に向けたセミナー、展示商談会を支援。
→ 生産者と実需者の連携(マッチング)促進による安定供給の拡大



産地



産地自らの自主的な取組

- 主食用米の
- ① 周年安定供給のための長期計画的な販売
 - ② 輸出用向けの販売促進等
 - ③ 業務用向け等の販売促進等
 - ④ 非主食用への販売
- (※) 値引きや価格差補てんのための費用は支援の対象外。

また、取引参加者の利便性を向上させるため、現物市場が共同でシステムの開発・導入を行う場合等に支援。

③ 米穀周年供給・需要拡大支援事業活用状況

米穀周年供給・需要拡大支援事業の各産地の活用状況は、

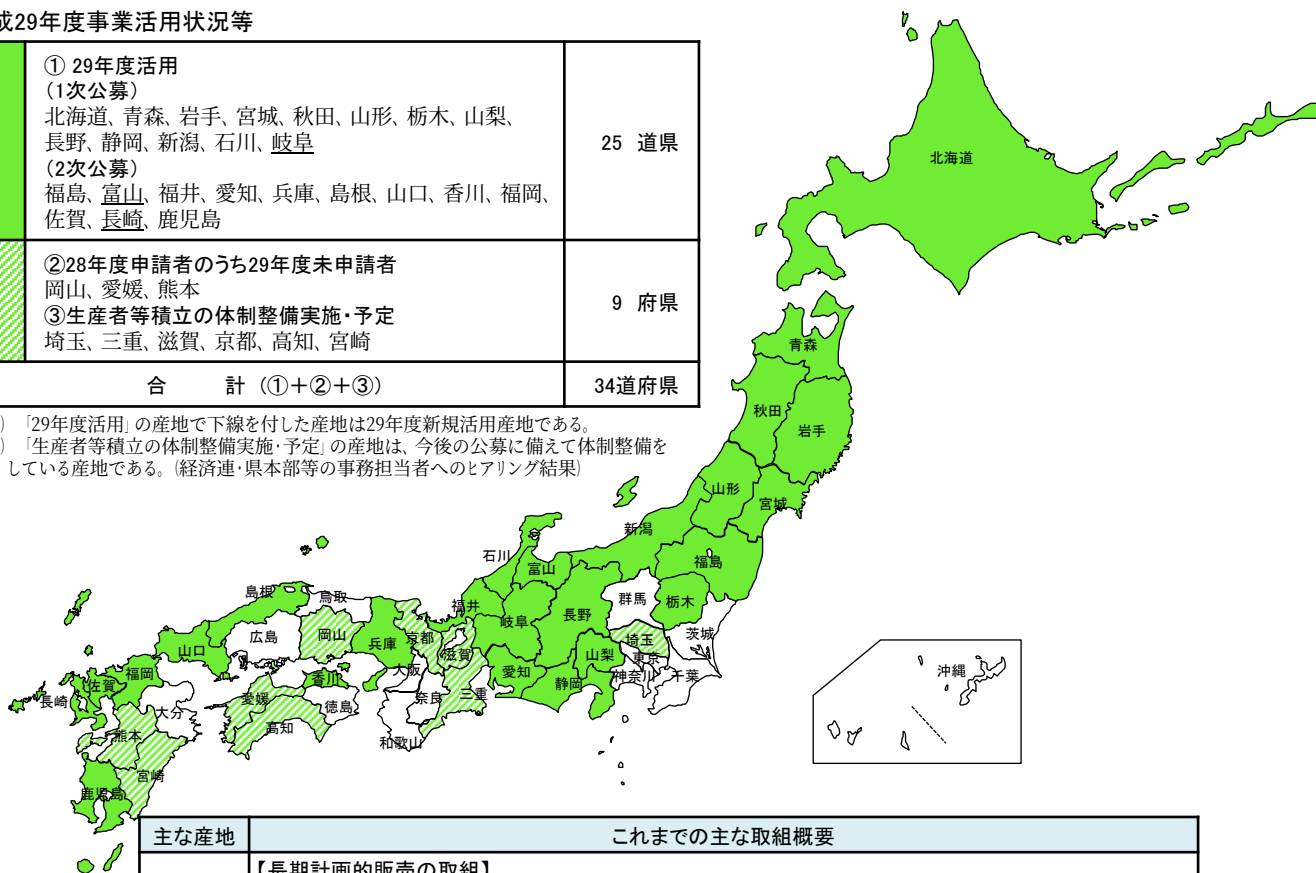
- ・ 平成27年度では17道県（18事業者）、平成28年度では25道県（27事業者）が活用。
- ・ 平成29年度は25道県（27事業者）が活用している状況にあり、出来秋の需給対策として、今後とも本事業を継続・推進。

平成29年度事業活用状況等

① 29年度活用 (1次公募) 北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、栃木、山梨、 長野、静岡、新潟、石川、岐阜 (2次公募) 福島、富山、福井、愛知、兵庫、島根、山口、香川、福岡、 佐賀、 <u>長崎</u> 、鹿児島	25 道県
②28年度申請者のうち29年度未申請者 岡山、愛媛、熊本 ③生産者等積立の体制整備実施・予定 埼玉、三重、滋賀、京都、高知、宮崎	9 府県
合 計 (①+②+③)	34道府県

注1) 「29年度活用」の産地で下線を付した産地は29年度新規活用産地である。

注2) 「生産者等積立の体制整備実施・予定」の産地は、今後の公募に備えて体制整備をしている産地である。(経済連・県本部等の事務担当者へのヒアリング結果)



主な産地	これまでの主な取組概要
北海道	【長期計画的販売の取組】 ・ 需要者と連携した生産年の翌年11月以降の長期計画的な販売 【輸出向けへの販売促進等の取組】 ・ 海外向け北海道米PRパンフレットの作成配布 【業務用向け等への販売促進等の取組】 ・ キャラクター（マツコ・デラックス）を用いた各種メディア及びイベントを活用した「ゆめぴりか」のPR ・ 認知度向上に向けた情報収集、データ分析による販路拡大手法の検討
秋田	【長期計画的販売の取組】 ・ 需要者と連携した生産年の翌年11月以降の長期計画的な販売 【業務用向け等への販売促進等の取組】 ・ キャラクター（小芝 風花）を用いた各種メディア及びイベントを活用した「あきたこまち」のPR ・ 食味分析データを用いた販売促進パンフレットの作成配布 ・ 外食事業者等が参加する各種商談会での試食等の実施
山形	【輸出向けへの販売促進等の取組】 ・ 海外百貨店等での「つや姫」、「はえぬき」PRキャンペーンの開催 【業務用向け等への販売促進等の取組】 ・ キャラクター（V6 長野 博）を用いた各種メディア及びイベントを活用した「はえぬき」のPR ・ 販路拡大に向けたコンサルティング活動
栃木	【長期計画的販売の取組】 ・ 需要者と連携した生産年の翌年11月以降の長期計画的な販売 【業務用向け等への販売促進等の取組】 ・ 地元出身書道家（涼 風花）を用いた各種メディア及びイベントを活用した「とちほのか」のPR ・ 公共交通機関のラッピングバス等を活用したPR
石川	【長期計画的販売の取組】 ・ 需要者と連携した生産年の翌年11月以降の長期計画的な販売 【輸出向けへの販売促進等の取組】 ・ 現地市場等調査による実需者ニーズの把握や石川県産米パンフレットの作成配布 【業務用向け等への販売促進等の取組】 ・ 各種メディアを活用した石川県産米のPR ・ 毎月2日を「おにぎりの日」に制定し、これを起点にした試食イベント等の開催

VI 消費動向

(1) 米の消費動向（米穀機構による調査）

○ 本調査は、調査実施機関（株）マクロミルのモニターの中から、本調査への協力の意向を示した消費世帯を対象としている（インターネット調査）。

- 米穀機構が公表している「米の消費動向」（平成29年8月）によると、1人1ヵ月当たりの精米消費量は、前年同月との比較で▲4.4%。
- このうち、家庭内での消費量は前年同月との比較で▲1.5%、中・外食は同▲10.8%。

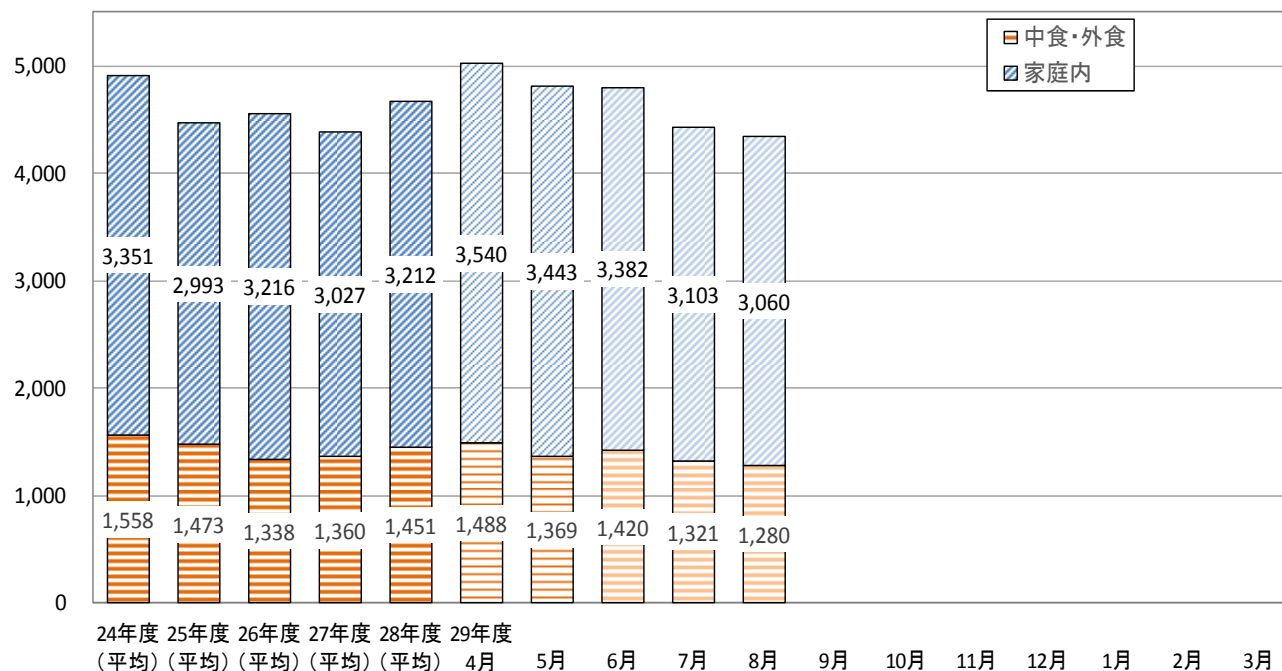
① 1人1ヵ月当たり精米消費量の推移

（精米g／人、%）

		精米消費量					内訳(比率)					前年同月比(比率)				
		合計	家庭内	中・外食			合計	家庭内	中・外食			合計	家庭内	中・外食		
					中食	外食				中食	外食				中食	外食
24年度	-	4,909	3,351	1,558	900	658	100.0	68.3	31.7	18.3	13.4	1.4	4.4	▲ 4.4	▲ 3.1	▲ 6.1
25年度	-	4,466	2,993	1,473	846	627	100.0	67.0	33.0	18.9	14.0	▲ 9.0	▲ 10.7	▲ 5.5	▲ 6.0	▲ 4.7
26年度	-	4,554	3,216	1,338	758	580	100.0	70.6	29.4	16.6	12.7	2.0	7.5	▲ 9.2	▲ 10.4	▲ 7.5
27年度	-	4,386	3,027	1,360	793	567	100.0	69.0	31.0	18.1	12.9	▲ 3.7	▲ 5.9	1.6	4.6	▲ 2.2
28年度	-	4,663	3,212	1,451	852	599	100.0	68.9	31.1	18.3	12.8	6.3	6.1	6.7	7.4	5.6
29年度	4月	5,028	3,540	1,488	908	580	100.0	70.4	29.6	18.1	11.5	0.5	3.4	▲ 5.9	▲ 4.2	▲ 8.4
	5月	4,812	3,443	1,369	833	536	100.0	71.6	28.4	17.3	11.1	▲ 1.2	3.0	▲ 10.1	▲ 9.0	▲ 11.8
	6月	4,802	3,382	1,420	871	549	100.0	70.4	29.6	18.1	11.4	▲ 0.1	3.6	▲ 7.7	▲ 5.3	▲ 11.2
	7月	4,424	3,103	1,321	751	570	100.0	70.1	29.9	17.0	12.9	▲ 1.9	2.6	▲ 11.2	▲ 13.9	▲ 7.3
	8月	4,340	3,060	1,280	731	549	100.0	70.5	29.5	16.8	12.6	▲ 4.4	▲ 1.5	▲ 10.8	▲ 12.6	▲ 8.5

1人1ヵ月当たり精米消費量の推移(グラフ)

（精米g／人）



出典：米穀安定供給確保支援機構「米の消費動向調査結果」

注：1 平成29年8月の有効調査世帯数は1,695世帯。

2 調査対象世帯の入れ替えや補充による調査結果の補正は行っていないため、調査結果の経年比較等の際には、留意が必要である。

3 家庭内消費量については、調査当月の月初と月末の精米在庫量及び精米購入数量から把握、中食・外食の消費量については、調査当月の家庭炊飯以外で食べた米飯の数量から推計。

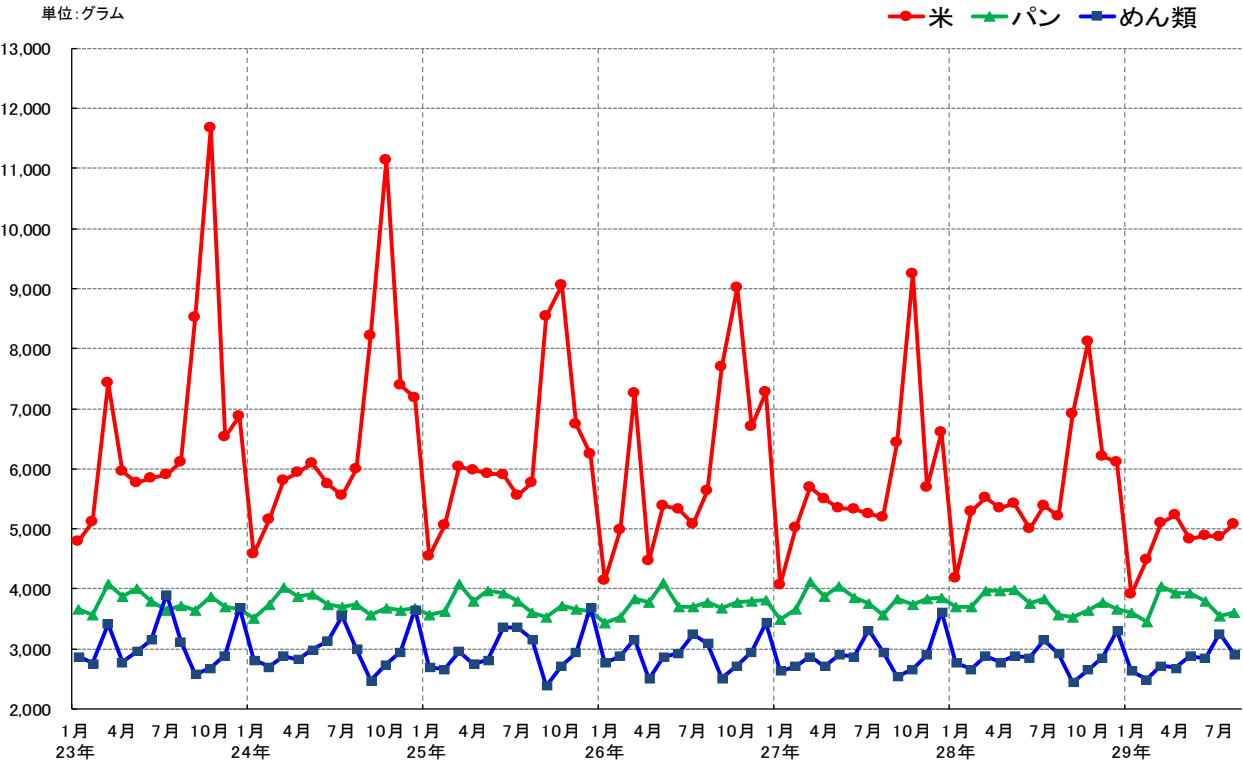
4 集計に際しては、地域毎に世帯人員構成比が平成22年国勢調査「世帯人員構成比」に沿うよう調整した上で推計。

5 四捨五入の関係で合計と内訳が合わない場合がある。

(2) 購入数量の推移（家計調査）

- 総務省が公表している家計調査によると、平成29年8月の米の購入数量は、前年同月との比較で▲2.7%の5.1kg、パンについては+1.4%の3.6kg、めん類については▲0.2%の2.9kg。

1世帯当たり購入数量の推移



(表) 1世帯当たり購入数量の推移

(単位：グラム)

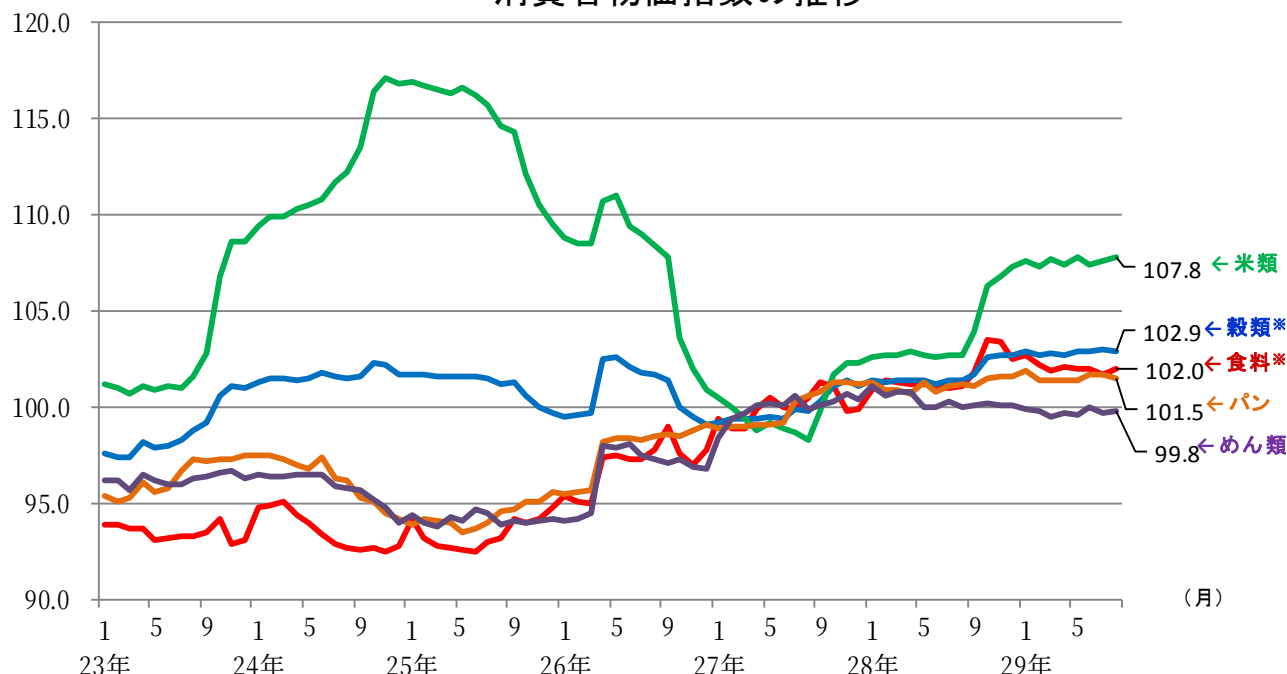
	米		パン		めん類	
	購入数量	対前年 (同月)比	購入数量	対前年 (同月)比	購入数量	対前年 (同月)比
平成20年	88,550	103.8%	44,445	98.2%	35,899	101.2%
平成21年	85,110	96.1%	45,599	102.6%	36,615	102.0%
平成22年	83,010	97.5%	45,443	99.7%	37,000	101.1%
平成23年	80,580	97.1%	45,255	99.6%	36,931	99.8%
平成24年	78,780	97.8%	44,808	99.0%	35,819	97.0%
平成25年	75,170	95.4%	44,927	100.3%	35,560	99.3%
平成26年	73,050	97.2%	44,926	100.0%	35,176	98.9%
平成27年	69,510	95.2%	45,676	101.7%	34,753	98.8%
平成28年	68,740	98.9%	45,099	98.7%	34,192	98.4%
平成29年1月	3,920	93.8%	3,607	97.7%	2,637	95.2%
2月	4,480	84.8%	3,457	93.6%	2,496	93.8%
3月	5,090	92.2%	4,056	102.4%	2,725	94.4%
4月	5,230	97.9%	3,929	98.8%	2,685	96.7%
5月	4,840	89.1%	3,925	98.3%	2,882	99.9%
6月	4,880	97.6%	3,790	100.6%	2,846	99.5%
7月	4,860	90.2%	3,548	92.6%	3,254	103.2%
8月	5,070	97.3%	3,609	101.4%	2,918	99.8%

資料： 総務省「家計調査」
注： 1 二人以上の世帯の数値である。
2 平成20年から平成28年については、年間の購入数量を示す。
3 米は精米ベースである。

(3) 消費者物価指数（27年基準）の推移

- ・ 総務省が公表している消費者物価指数によると、平成29年8月の米類の指数は、先月との比較では+0.1の107.8ポイント。
- ・ なお、前年同月との比較では+4.9ポイント。

消費者物価指数の推移



- 注：1 図中の実線は、平成27年の平均価格を100とした数値となる。
 2 図中の数値は、平成29年8月の消費者物価指数となる。
 3 図中の食料とは穀類、魚介類、肉類等を、穀類とは米類、パン、めん類、他の穀類をいう。

(表) 消費者物価指数の推移（対前年同月比）

(平成27年=100、指数)

	食料		穀類		米類		うるち米		パン		めん類	
		対前年 (同月)比		対前年 (同月)比		対前年 (同月)比		対前年 (同月)比		対前年 (同月)比		対前年 (同月)比
平成20年	93.9	2.6%	102.9	6.4%	110.7	▲1.3%	111.4	▲1.3%	99.8	12.6%	97.2	11.7%
平成21年	94.1	0.2%	103.7	0.8%	111.1	0.4%	111.6	0.2%	100.1	0.3%	98.8	1.7%
平成22年	93.9	▲0.3%	100.4	▲3.2%	107.2	▲3.5%	107.7	▲3.5%	96.2	▲3.9%	97.0	▲1.9%
平成23年	93.5	▲0.4%	98.8	▲1.6%	103.0	▲4.0%	103.4	▲4.0%	96.4	0.2%	96.2	▲0.8%
平成24年	93.6	0.1%	101.7	3.0%	112.4	9.2%	113.3	9.6%	96.3	▲0.1%	95.8	▲0.4%
平成25年	93.4	▲0.1%	101.2	▲0.5%	114.6	2.0%	115.7	2.1%	94.4	▲1.9%	94.2	▲1.7%
平成26年	97.0	3.8%	100.8	▲0.4%	107.4	▲6.3%	107.9	▲6.8%	97.8	3.6%	96.6	2.6%
平成27年	100.0	3.1%	100.0	▲0.8%	100.0	▲6.9%	100.0	▲7.3%	100.0	2.2%	100.0	3.5%
平成28年	101.7	1.7%	101.7	1.7%	103.8	3.8%	104.0	4.0%	101.2	1.2%	100.3	0.3%
平成29年1月	102.7	1.8%	102.9	1.5%	107.6	4.9%	108.0	5.2%	101.9	0.5%	99.9	▲1.1%
2月	102.2	0.8%	102.7	1.4%	107.3	4.5%	107.6	4.7%	101.4	0.5%	99.8	▲0.8%
3月	101.9	0.5%	102.8	1.3%	107.7	4.9%	108.1	5.1%	101.4	0.6%	99.5	▲1.3%
4月	102.1	0.9%	102.7	1.3%	107.4	4.4%	107.7	4.7%	101.4	0.7%	99.7	▲1.0%
5月	102.0	0.8%	102.9	1.4%	107.8	5.0%	108.1	5.3%	101.4	0.1%	99.6	▲0.4%
6月	102.0	0.8%	102.9	1.7%	107.4	4.6%	107.7	4.9%	101.7	0.9%	100.0	▲0.1%
7月	101.7	0.6%	103.0	1.5%	107.6	4.8%	107.9	5.0%	101.7	0.6%	99.7	▲0.5%
8月	102.0	0.9%	102.9	1.5%	107.8	4.9%	108.1	5.2%	101.5	0.3%	99.8	▲0.2%

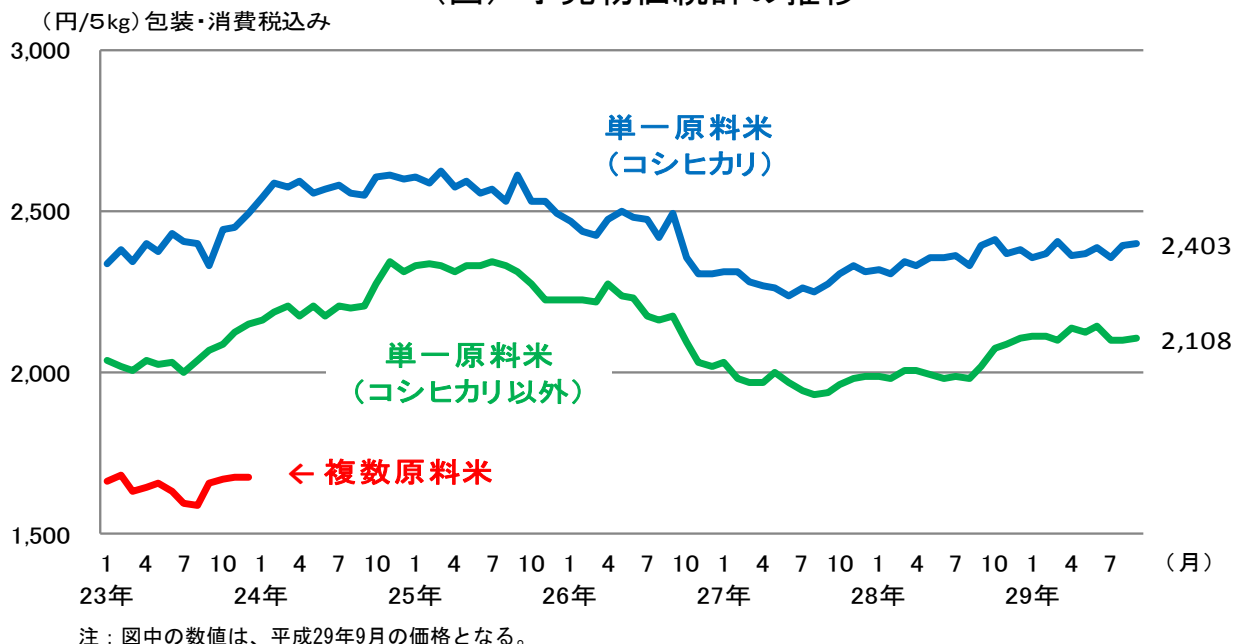
資料：総務省「消費者物価指数」（平成27年基準）

- 注：1 表中の数値は、平成27年の平均価格を100として指数化したものである。
 2 食料は、穀類以外にも、魚介類、肉類等を含んでいる。
 3 穀類は、米類（うるち米、もち米）、パン、めん類、他の穀類からなる。
 4 平成20年から平成28年のデータは年平均、平成29年1月以降は月次データを用いている。

(4) 小売物価統計の推移

- 総務省が公表している小売物価統計によると、平成29年9月のうるち米の小売価格（5kg当たり）は、単一原料米（コシヒカリ）で、前年同月より+0.5%の2,403円。
- 単一原料米（コシヒカリ以外）は、前年同月より+4.4%の2,108円。

(図) 小売物価統計の推移



(表) 小売物価統計の推移

(単位:円/5kg)

	うるち米				
	単一原料米 (コシヒカリ)	対前年 (同月)比	単一原料米 (コシヒカリ以外)	対前年 (同月)比	複数原料米
平成20年	2,610	▲2.2%	2,270	▲0.8%	1,832
平成21年	2,531	▲3.0%	2,201	▲3.0%	1,812
平成22年	2,462	▲2.7%	2,136	▲3.0%	1,739
平成23年	2,399	▲2.5%	2,053	▲3.9%	1,649
平成24年	2,577	7.4%	2,223	8.3%	—
平成25年	2,567	▲0.4%	2,307	3.8%	—
平成26年	2,428	▲5.4%	2,173	▲5.8%	—
平成27年	2,285	▲5.9%	1,973	▲9.2%	—
平成28年	2,355	3.1%	2,019	2.3%	—
平成29年1月	2,355	1.6%	2,111	6.1%	—
2月	2,370	2.6%	2,112	6.7%	—
3月	2,406	2.7%	2,100	4.6%	—
4月	2,362	1.4%	2,137	6.6%	—
5月	2,371	0.6%	2,124	6.5%	—
6月	2,385	1.2%	2,143	8.0%	—
7月	2,359	0.0%	2,098	5.4%	—
8月	2,391	2.5%	2,101	6.1%	—
9月	2,403	0.5%	2,108	4.4%	—

資料：総務省「小売物価統計」

注1：東京都区部の数値である。

2：特売を除いた価格である。

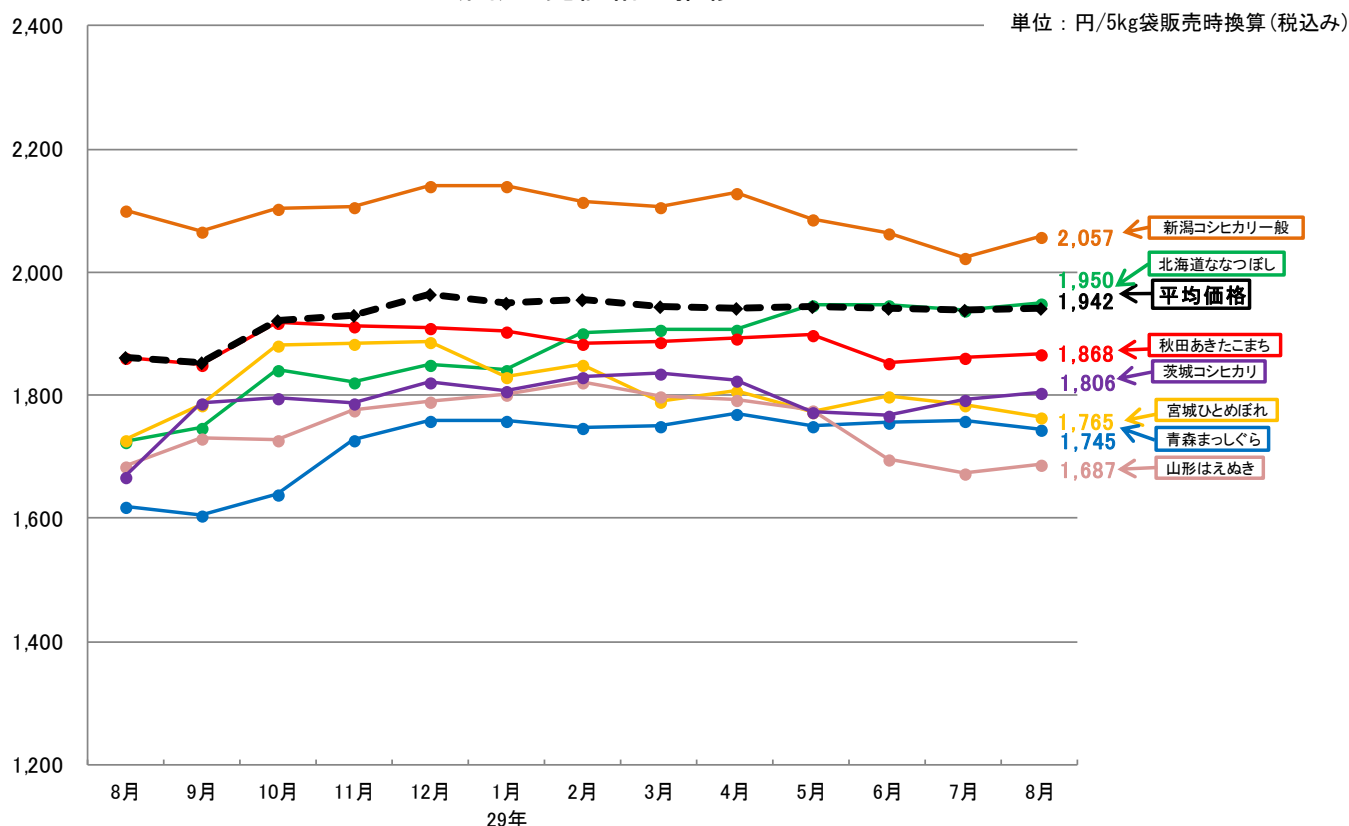
3：精米ベースである。

4：複数原料米については、平成23年12月をもって調査が終了した。

(5) 小売価格の推移 (POSデータ)

平成29年8月の小売価格(POSデータ)の平均価格(5kg当たり)は、前月より+5円(+0.3%)、前年同月より+80円(+4.3%)の1,942円。

(図)小売価格の推移



(表)小売価格の推移

単位：円/5kg袋販売時換算(消費税込み)

	品種銘柄							全POS取引 平均価格
	北海道 ななつぼし	青森 まっしぐら	宮城 ひとめぼれ	秋田 あきたこまち	山形 はえぬき	茨城 コシヒカリ	新潟 コシヒカリ一般	
28年8月	1,725	1,620	1,729	1,860	1,685	1,667	2,101	1,862
9月	1,746	1,604	1,785	1,849	1,732	1,789	2,065	1,853
10月	1,842	1,639	1,882	1,919	1,729	1,796	2,103	1,921
11月	1,823	1,727	1,885	1,913	1,776	1,788	2,106	1,931
12月	1,850	1,760	1,887	1,910	1,792	1,821	2,140	1,963
29年1月	1,843	1,759	1,830	1,905	1,802	1,808	2,141	1,949
2月	1,902	1,749	1,852	1,885	1,821	1,831	2,114	1,957
3月	1,907	1,751	1,792	1,887	1,798	1,835	2,105	1,945
4月	1,908	1,771	1,807	1,894	1,793	1,824	2,128	1,941
5月	1,948	1,750	1,775	1,898	1,776	1,773	2,086	1,944
6月	1,948	1,755	1,799	1,853	1,698	1,767	2,062	1,941
7月	1,939	1,759	1,784	1,862	1,673	1,795	2,023	1,937
8月	1,950	1,745	1,765	1,868	1,687	1,806	2,057	1,942
対前月比	0.6%	▲ 0.8%	▲ 1.1%	0.3%	0.8%	0.6%	1.7%	0.3%
対前年同月比	13.0%	7.7%	2.1%	0.4%	0.1%	8.3%	▲ 2.1%	4.3%

資料：(株)KSP-SPが提供するPOSデータに基づいて農林水産省が作成

注：1 (株)KSP-SPが提供するPOSデータは、全国約1,020店舗のスーパー、生協等から購入したデータに基づくものである。

2 POSデータは、データ提供企業から遅れて報告されるものもあるため、時点によって集計結果に若干のずれが生じることがあり、今後、修正されることもある。

3 POSデータの提供店舗数は、変動があることに留意が必要である。

4 平均価格は、POSデータで把握できる全ての精米の販売について5kg袋販売時に換算した上で加重平均を行った価格である。

5 価格に含む消費税は8%である。

Ⅶ MA米（一般・SBS）の動向

（１） MA米の輸入数量（輸入先国別及び輸入方式別）

（単位：千玄米トン）

	米 国	タ イ	中 国	オースト ラリア	その他	合 計	うち一般輸入	うちSBS輸入※
平成7年度	194	107	32	87	5	426	415	11
平成8年度	233	144	40	87	6	511	488	22
平成9年度	290	151	46	95	13	596	537	55
平成10年度	313	152	78	109	29	681	551	120
平成11年度	339	159	86	115	24	724	591	120
平成12年度	356	168	99	120	24	767	632	120
平成13年度	364	146	136	110	11	767	655	100
平成14年度	361	153	112	96	44	767	710	50
平成15年度	355	153	110	90	51	759	647	100
平成16年度	361	185	98	20	103	767	661	94
平成17年度	362	186	84	19	116	767	655	100
平成18年度	358	179	76	52	102	767	654	100
平成19年度	358	243	82	－	13	696	585	100
平成20年度	430	261	72	－	6	769	658	100
平成21年度	358	332	71	－	5	767	655	100
平成22年度	356	345	19	40	6	767	725	37
平成23年度	358	241	56	71	40	767	658	100
平成24年度	362	281	46	64	13	767	656	100
平成25年度	359	351	1	41	15	767	700	61
平成26年度	359	332	55	14	6	767	754	12
平成27年度	359	344	56	1	6	767	734	29
平成28年度	376	375	3	7	7	767	685	73
平成29年度 (9月末現在)	62	43	1	6	－	111	86	25

資料： 農林水産省「米をめぐる関係資料」
※SBS輸入数量の単位は千実トン。

注： 1 各年度の輸入契約数量の推移。

2 ラウンドの関係で合計と内訳が一致しないことがある。

3 千実トンと千玄米トンのため合計は一致しないことがある。

（参考）MA米以外で、枠外税率を支払って輸入されるコメの数量は、毎年0.1～0.2千トン程度

(2) 加工原材料用に係る政府所有MA米の見積合わせ結果(平成29年度)

(単位:実トン)

販売期間	うち	販売期間	もち
平成29年4～6月分	30,226	平成29年4～7月分	3,071
4月分	405	平成29年8～11月分	
5月分	678	平成29年12～平成30年3月分	
6月分	1,000		
7～9月分			
7月分			
8月分			
9月分			
10～12月分			
10月分			
11月分			
12月分			
平成30年1～3月分			
1月分			
2月分			
3月分			
小 計	32,309	小 計	3,071
合計	35,380		

資料:農林水産省「加工原材料用に係る政府所有ミニマム・アクセス米の見積合わせ結果の概要について」

(3) SBS輸入米の見積合わせ結果(平成29年度)

(単位:実トン)

		アメリカ		タイ		中国		その他		合計
		うち	もち	うち	もち	うち	もち	うち	もち	
第1回 (平成29年9月27日)	一般米	15,150	496	140	0	900	0	5,814	0	22,500
	砕精米	1,998	100	300	0	100	0	0	0	2,498
平成23年度計 (参考)	一般米	7,490	5,324	2,038	80	50,463	0	17,155	0	82,550
	砕精米	10,124	990	2,320	3,384	632	0	0	0	17,450
平成24年度計 (参考)	一般米	34,076	2,290	1,536	72	27,640	0	24,386	0	90,000
	砕精米	4,032	576	2,898	364	524	0	1,606	0	10,000
平成25年度計 (参考)	一般米	14,686	4,396	3,346	144	174	0	17,993	0	40,739
	砕精米	576	388	7,375	308	540	0	10,913	0	20,100
平成26年度計 (参考)	一般米	662	2,418	2,732	72	80	0	1,326	0	7,290
	砕精米	0	724	2,540	252	700	0	100	0	4,316
平成27年度計 (参考)	一般米	4,251	3,458	2,762	72	76	0	2,244	0	12,863
	砕精米	10,940	1,260	2,420	1,022	660	0	150	0	16,452
平成28年度計 (参考)	一般米	27,318	3,600	3,487	108	2,156	0	8,097	0	44,766
	砕精米	24,820	700	2,300	388	240	0	100	0	28,548

資料:農林水産省「輸入米に係るSBSの結果の概要」の平成23～29年度

VIII その他

(1) 水稻うるち玄米の農産物検査結果

- 平成29年産水稻うるち玄米の平成29年8月31日現在の検査数量は、24万トン。
- 1等米比率は、68.4%。

① 検査数量の推移（累計）

単位：千トン

年産別	当年						翌年			
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	10月
24	13	223	1,732	3,750	4,156	4,313	4,411	4,532	4,657	5,041
25	23	265	1,869	3,806	4,248	4,433	4,537	4,661	4,793	5,206
26	12	229	1,789	3,785	4,276	4,470	4,595	4,720	4,880	5,275
27	11	220	1,537	3,506	3,964	4,149	4,252	4,385	4,518	4,868
28	18	231	1,656	3,564	4,036	4,212	4,319	4,451	4,585	
参考：前年比	161%	105%	108%	102%	102%	102%	102%	101%	101%	
29	13	244								
参考：前年比	72%	105%								

注：1 各月末時点の検査数量である。

2 生産年の7月から翌年3月までは速報値、翌年10月は確定値である。

② 検査数量及び等級比率（年産別）

単位：トン、%

年産別	検査数量	等級別数量				等級比率			
		1等	2等	3等	規格外	1等	2等	3等	規格外
18	4,776,481	3,746,166	822,163	112,475	95,677	78.4	17.2	2.4	2.0
19	4,805,870	3,826,432	795,452	95,082	88,903	79.6	16.6	2.0	1.8
20	5,093,440	4,073,571	849,087	76,542	94,240	80.0	16.7	1.5	1.9
21	4,818,603	4,102,807	582,137	48,396	85,263	85.1	12.1	1.0	1.8
22	4,859,642	3,013,076	1,570,194	152,813	123,559	62.0	32.3	3.1	2.5
23	4,753,193	3,840,127	759,339	60,000	93,727	80.8	16.0	1.3	2.0
24	5,041,489	3,953,978	910,522	82,760	94,229	78.4	18.1	1.6	1.9
25	5,205,717	4,112,147	905,866	96,289	91,415	79.0	17.4	1.8	1.8
26	5,274,634	4,291,267	806,063	70,348	106,956	81.4	15.3	1.3	2.0
27	4,868,582	4,016,682	687,771	82,654	81,475	82.5	14.1	1.7	1.7
28(注2)	4,584,593	3,824,029	635,059	62,986	62,518	83.4	13.9	1.4	1.4
29(注3)	243,514	166,591	60,743	11,997	4,183	68.4	24.9	4.9	1.7

資料：農林水産省とりまとめ

注：1 等級比率は、1等であれば農産物検査法に基づく検査の結果、1等に格付けされた割合である。

2 28年産米については、平成29年3月31日現在（速報値）。

3 29年産米については、平成29年8月31日現在（速報値）。

(2) 平成29年産水稻の作付面積、10a当たり予想収量及び作柄概況（9月15日現在）

全 国 ・ 都道府県	作 付 面 積 （ 青 刈 り 面 積 を 含 む 。 ）			10 a 当たり 予想収量	（参考）農家等が使用している ふるい目幅で選別		
	実 数	前 年 産 と の 比 較			10 a 当たり 予想収量 ②	10 a 当たり 平年収量 ③	作 況 指 数 ④＝②／③
		対 差	対 比	①			
全 国 (1)	1,600,000	△ 11,000	99	534	519	518	100
北 海 道 (2)	106,900	△ 1,400	99	560	543	530	102
青 森 (3)	50,500	△ 200	100	593	569	573	99
岩 手 (4)	56,100	△ 500	99	538	524	522	100
宮 城 (5)	74,700	100	100	539	521	519	100
秋 田 (6)	91,000	△ 600	99	573	552	556	99
山 形 (7)	69,300	△ 400	99	599	586	580	101
福 島 (8)	71,000	200	100	549	529	527	100
茨 城 (9)	77,200	△ 600	99	526	514	515	100
栃 木 (10)	69,400	△ 100	100	510	493	529	93
群 馬 (11)	17,600	△ 300	98	494	478	479	100
埼 玉 (12)	34,000	△ 700	98	483	469	475	99
千 葉 (13)	61,300	△ 300	100	544	529	528	100
東 京 (14)	141	△ 10	93	412	403	404	100
神 奈 川 (15)	3,110	△ 20	99	520	500	478	105
新 潟 (16)	120,900	△ 400	100	528	513	527	97
富 山 (17)	39,100	△ 200	99	548	530	527	101
石 川 (18)	26,100	△ 300	99	519	505	507	100
福 井 (19)	26,300	0	100	525	504	500	101
山 梨 (20)	4,980	△ 40	99	548	533	533	100
長 野 (21)	32,900	△ 400	99	628	616	607	101
岐 阜 (22)	25,200	△ 100	100	490	481	478	101
静 岡 (23)	17,300	△ 100	99	518	508	513	99
愛 知 (24)	29,400	△ 300	99	510	501	499	100
三 重 (25)	29,500	△ 100	100	480	466	489	95
滋 賀 (26)	32,900	△ 100	100	517	504	506	100
京 都 (27)	14,900	△ 200	99	511	503	502	100
大 阪 (28)	5,160	△ 160	97	506	490	480	102
兵 庫 (29)	37,700	△ 300	99	497	487	489	100
奈 良 (30)	8,730	△ 100	99	522	510	500	102
和 歌 山 (31)	6,560	△ 160	98	507	492	484	102
鳥 取 (32)	14,100	△ 100	99	521	511	504	101
島 根 (33)	19,200	△ 200	99	519	511	500	102
岡 山 (34)	32,200	△ 200	99	538	524	514	102
広 島 (35)	24,800	△ 300	99	528	519	513	101
山 口 (36)	21,500	△ 500	98	519	509	492	103
徳 島 (37)	12,500	△ 200	98	479	475	469	101
早期栽培 (38)	4,960	△ 40	99	481	477	459	104
普通栽培 (39)	7,530	△ 180	98	479	474	475	100
香 川 (40)	13,200	△ 500	96	491	485	490	99
愛 媛 (41)	14,500	△ 200	99	506	500	492	102
高 知 (42)	12,800	△ 100	99	470	466	454	103
早期栽培 (43)	7,370	△ 30	100	498	495	477	104
普通栽培 (44)	5,410	△ 120	98	433	429	426	101
福 岡 (45)	39,200	△ 100	100	510	492	477	103
佐 賀 (46)	26,400	0	100	541	525	503	104
長 崎 (47)	12,900	△ 300	98	500	482	463	104
熊 本 (48)	42,400	0	100	525	509	497	102
大 分 (49)	25,000	△ 200	99	508	487	480	101
宮 崎 (50)	23,500	△ 200	99	505	492	482	102
早期栽培 (51)	8,950	△ 90	99	494	486	470	103
普通栽培 (52)	14,600	0	100	513	496	490	101
鹿 児 島 (53)	24,900	△ 400	98	502	489	469	104
早期栽培 (54)	6,490	△ 130	98	472	464	434	107
普通栽培 (55)	18,500	△ 100	99	510	496	478	104
沖 縄 (56)	727	△ 58	93	...	...	305	...
第一期稲 (57)	537	△ 23	96	354	350	363	96
第二期稲 (58)	190	△ 35	84	...	...	...	...

注：1 ①10a当たり予想収量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。

2 (参考)農家等が使用しているふるい目幅で選別の②10a当たり予想収量、③10a当たり平年収量及び④作況指数については、全国農業地域ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでの目幅(北海道、東北及び北陸は1.85mm、関東・東山、東海、近畿、中国及び九州は1.80mm、四国及び沖縄は1.75mm)以上に選別された玄米を基に算出した数値である。

3 沖縄県平均の10a当たり予想収量並びに(参考)農家等が使用しているふるい目幅で選別の10a当たり予想収量及び作況指数は第二期稲が出穂前であるため「...」で示しており、沖縄県計の予想収穫量(主食用)の算出には10a当たり平年収量を用いた。

参 考		平 年 比 較				
主食用作付見込面積	予想収穫量（主食用）	穂数の多少	1 穂 当 た り も み 数 多	全 も み 数 の 多 少	登熟の良否	
⑤	⑥＝①×⑤					
ha	t					
1,370,000	7,313,000	…	…	…	…	(1)
98,600	552,200	やや少ない	やや多い	平年並み	やや良	(2)
38,000	225,300	平年並み	多 い	多 い	不 良	(3)
47,000	252,900	平年並み	平年並み	やや多い	やや不良	(4)
63,500	342,300	やや多い	平年並み	多 い	やや不良	(5)
69,500	398,200	平年並み	やや多い	やや多い	やや不良	(6)
56,400	337,800	やや多い	平年並み	やや多い	平年並み	(7)
59,900	328,900	やや多い	平年並み	やや多い	やや不良	(8)
66,400	349,300	やや多い	やや少ない	平年並み	平年並み	(9)
53,600	273,400	多 い	やや少ない	平年並み	不 良	(10)
13,900	68,700	平年並み	やや多い	やや多い	やや不良	(11)
30,700	148,300	やや多い	やや少ない	やや多い	やや不良	(12)
53,300	290,000	やや多い	平年並み	やや多い	やや不良	(13)
141	581	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み	(14)
3,090	16,100	多 い	やや多い	多 い	やや不良	(15)
100,300	529,600	平年並み	少 な い	やや少ない	やや良	(16)
33,300	182,500	多 い	やや少ない	やや多い	やや不良	(17)
23,200	120,400	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み	(18)
23,300	122,300	やや多い	やや少ない	平年並み	平年並み	(19)
4,880	26,700	やや多い	平年並み	平年並み	平年並み	(20)
31,300	196,600	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み	(21)
21,500	105,400	やや多い	平年並み	平年並み	平年並み	(22)
15,600	80,800	やや多い	平年並み	やや多い	やや不良	(23)
26,600	135,700	やや多い	やや少ない	平年並み	平年並み	(24)
26,800	128,600	やや多い	少 な い	やや少ない	やや不良	(25)
30,000	155,100	やや多い	やや少ない	平年並み	平年並み	(26)
14,100	72,100	やや多い	やや少ない	平年並み	平年並み	(27)
5,150	26,100	やや多い	平年並み	やや多い	平年並み	(28)
35,100	174,400	やや多い	やや少ない	平年並み	平年並み	(29)
8,580	44,800	やや多い	やや少ない	やや多い	平年並み	(30)
6,560	33,300	やや多い	平年並み	やや多い	平年並み	(31)
12,400	64,600	多 い	やや少ない	やや多い	やや不良	(32)
17,200	89,300	多 い	やや少ない	やや多い	平年並み	(33)
29,100	156,600	多 い	やや少ない	平年並み	平年並み	(34)
23,100	122,000	多 い	少 な い	平年並み	平年並み	(35)
19,300	100,200	多 い	やや少ない	やや多い	平年並み	(36)
11,300	54,100	…	…	…	…	(37)
…	…	多 い	やや少ない	多 い	やや不良	(38)
…	…	やや多い	少 な い	やや少ない	やや良	(39)
12,800	62,800	やや少ない	やや少ない	やや少ない	やや良	(40)
13,900	70,300	やや多い	平年並み	平年並み	平年並み	(41)
11,500	54,100	…	…	…	…	(42)
…	…	多 い	やや少ない	多 い	やや不良	(43)
…	…	やや多い	やや少ない	平年並み	平年並み	(44)
35,100	179,000	多 い	やや少ない	やや多い	平年並み	(45)
24,400	132,000	多 い	やや少ない	多 い	やや不良	(46)
11,600	58,000	多 い	やや少ない	やや多い	やや不良	(47)
32,200	169,100	多 い	やや少ない	やや多い	平年並み	(48)
20,900	106,200	平年並み	平年並み	やや多い	やや不良	(49)
15,000	75,800	…	…	…	…	(50)
…	…	やや多い	やや少ない	やや多い	やや良	(51)
…	…	平年並み	やや少ない	やや少ない	やや良	(52)
19,600	98,400	…	…	…	…	(53)
…	…	やや多い	やや多い	多 い	やや良	(54)
…	…	やや多い	やや少ない	やや多い	平年並み	(55)
727	2,250	…	…	…	…	(56)
…	…	やや少ない	平年並み	やや少ない	平年並み	(57)
…	…	…	…	…	…	(58)

- 4 主食用作付見込面積とは、水稻作付面積（青刈り面積を含む。）から、生産数量目標の外数として取り扱う米穀等（備蓄米、加工用米、新規需要米等）の作付面積（平成29年9月15日現在）を除いた面積（見込み）である。
- 5 徳島県、高知県、宮崎県、鹿児島県及び沖縄県の早期・普通期別等の主食用作付見込面積は、作期別に備蓄米、加工用米、新規需要米等の面積を把握していないことから「…」で示している。
- 6 徳島県、高知県、宮崎県、鹿児島県及び沖縄県の県平均の「穂数の多少」以降の指標は、調査を早期・普通期別等に行っており県平均を取りまとめているため、「…」で示している。

これまで、本資料に掲載していた以下の情報については、別冊「資料編」に掲載いたしました。

(別冊)「資料編」の目次

I	在庫情報	
	平成27・28年産の産地別民間在庫の推移 (うるち米、平成28年7月末から29年6月末) (速報)	1
II	米の価格情報	
	業者間取引の状況	14
	① 日本コメ市場 (随時取引の結果)	
	② 日本コメ市場・クリスタルライス (取引会の結果)	
	③ (株)加工用米取引センターの取引結果	
	④ 米の現物市場の状況	
III	主食用米以外 (輸出を含む)	
	(1) 加工用米及び新規需要米の取組状況等	17
	① 加工用米の生産量	
	② 新規需要米の用途別認定状況	
	③ 加工用米・新規需要米等の取組状況 (平成28年産、都道府県別)	
	(2) 飼料用米のマッチングの取組状況、配合飼料メーカーへの飼料用の供給等	19
	(3) 政府備蓄米の運営	20
	備蓄米の買入入札の結果 (落札実績) (平成23～29年産)	
	(4) 商業用の米の輸出量及び金額の推移	21
	(5) 2016年の主な増加要因 (輸出業者等からのヒアリング結果による)	22
	(6) 米菓の輸出量及び金額の推移	23
	(7) 日本酒 (清酒) の輸出量及び金額の推移	24
IV	消費動向	
	(1) 米の消費動向 (米穀機構による調査)	25
	(2) 小売価格の推移 (POSデータ、主な銘柄)	28
V	その他	
	(1) 米取引関係者の判断 (米穀機構による調査、平成29年9月分)	29
	(2) 平成28年産水陸稲の収穫量	34
	(3) 水稻作付面積及び収穫量等の年次別推移 (全国)	37
	(4) 水稻玄米のふるい目幅別重量分布状況、 10a 当たり収量及び収穫量 (子実用) の年次別推移	37
	(5) 麦・大豆の需要情報	39
	① 29年産麦の産地別銘柄別入札結果	
	② 28年産大豆の産地別銘柄別入札結果	
	(6) 野菜等の需給情報	45
	(7) 米の安定取引研究会報告書の概要	47

米に関するマンスリーレポート (本編・資料編) は、農林水産省のホームページからご覧いただけます。

(URL) <http://www.maff.go.jp/j/seisan/keikaku/soukatu/mr.html>

大規模生産法人、農協等の皆様向けパンフレット

出展無料
大規模生産法人、農協等の皆様へ

業務用途への安定取引に向けた

米マッチングフェア 2017

産地 大規模生産法人、農協等

実需者 中食・外食事業者等

【開催時期】 平成29年9月～平成30年2月

【開催場所】 全国10か所（11回開催）

札幌、仙台、さいたま、東京（2回）、金沢、名古屋、京都、大阪、岡山、熊本

家庭内での米の消費が減る一方で、中食・外食等における米の需要は伸びており、このような業務用途の米は、今後も堅調な需要が見込まれます。

平成30年度米から行取による生産調整目標の配分がなくなる中で、今後一層、米産地の法人や農協等がユーザーである中食・外食事業者等と結びつき、当該事業者のニーズに応じた生産を行い、積算年契約や増産前契約を締結するなど安定した取引につなげていくことが重要です。

このような取引の拡大に向けて、業務用途への安定取引に取り組みたい米産地と中食・外食事業者等とのマッチングを行う「米マッチングフェア2017」を全国各地で開催します。

皆様、ぜひこのマッチングイベントに参加し、安定した米の販路を開拓しませんか？

主催・協賛会社 グレイン・エス・ビー
実行委員会 農協連合会（平成28年度米販出先別：新米販出先別）のうち、農協連合会（米販出先別）のすて
グレイン・エス・ビーが主催。

お問い合わせ
株式会社 グレイン・エス・ビー
〒113-0034 東京都文京区湯島2-12-5 湯島ビル3F
Tel: 03-3816-0672 Fax: 03-3816-0706
E-mail: kome-matching@esb.co.jp

米マッチングフェア2017

産地向け募集説明会 のご案内

産地向け募集説明会 開催スケジュール

【開催スケジュール】 受付 13:00 開催 13:30～16:00

札幌会場	平成29年6月23日(金)	(北海道農政事務所 大会議室) 北海道札幌市中央区南12条西6丁目22 エムスエムビル2F
仙台会場	平成29年6月29日(木)	(東北農政局 合同庁舎2階) 宮城県仙台市青葉区本町3-3-1 合同庁舎2F
さいたま会場	平成29年6月20日(火)	(関東農政局 共用小中教室5C) 埼玉県さいたま市中央区新栄2-1-1 さいたま市合同庁舎2号館5F
東京会場	平成29年6月27日(火)	(TKP 神田ビジネスセンター ANNEX ホール8E) 東京都千代田区神田錦上1-1-1 住友信託銀行ビル8F
金沢会場	平成29年7月20日(木)	(TKP 金沢ビジネスセンター カンファレンスルーム9A) 石川県金沢市上町1-1-35 アパルメントビル9F
名古屋会場	平成29年7月14日(金)	(新潟農政局 第1会議室) 愛知県名古屋市中区三の丸1-2-2 愛知通商ビル1F
京都会場	平成29年7月12日(水)	(TKP 京都市東山区九条カンファレンスセンター カンファレンスルーム2B) 京都府京都市下京区九条三条通東入町西町27番 コーポレート1F
大阪会場	平成29年7月11日(火)	(TKP 新大阪カンファレンスセンター カンファレンスルーム6A) 大阪府大阪市淀川区宮田4丁目1-4 KOX新大阪ビル2F
岡山会場	平成29年7月24日(月)	(中国四国農政局 会議室A・B) 岡山県岡山市北区下石井1-4-1 田中ビル 6F
熊本会場	平成29年7月5日(水)	(TKP ガーデンシティ熊本 本館10F) 熊本県熊本市中央区下里1-7-18 ガーデンシティ熊本5F

産地向けの募集説明会に参加希望される方へ

産地向けの募集説明会は、平成29年の9月より農協会合セミナーの開催前に、農協（大規模生産法人、農協等）の協賛を対象に開催いたします。

当日は、生産者より8月からの積算年契約の締結を目的とし、昨今の業務用途の米の動向や参加される方に有益なPR活動なども実施する予定です。

参加希望の方は、募集説明会の日程をご確認の上、参加希望開催日の1週間前までに募集の申し込み書でアクセスされたメールにてお申し込みください。

なお、募集説明会に参加される方を優先的に、展示場出展者として登録しますので、ご参加のほどよろしくお願いいたします。

※この募集説明会は、各地域の農協・プロダクトの会場でご参加いただけます。
但し、会場によりお申し込みの受付も異なりますので、ご確認ください。

展示場出展に参加希望される方へ

東京・大阪会場、地方会場の「展示場出展セミナー」を各ページのスケジュールで開く、行います。
出展希望の生産者の方は、各回の参加申込書と日程をご確認ください。

※産地と実需者による契約締結、積算年契約の締結、長期の取引を目的とする展示場出展です。

※出展スペース：展示テーブル（180×60cm）を予定

※小売販売は、無料です。ただし、そのほかの展示、会場までの交通、宿泊費等は各自でご負担ください。
※展示場出展は、出展登録が必須です。出展登録の場、登録料金を要いたします。

※大規模生産者の場合は、先着順となります。ご了承ください。

※ご参加の際は、説明会当日は会場にお越しください。なお、ホームページにて情報、最新情報をアップしますので、ぜひご確認ください。

展示商談会・セミナーのご案内

出展無料
大規模生産法人、
農協等の
皆様へ

展示商談会・セミナー（東京・大阪開催） 各2日間

【開催スケジュール】

東京会場（TRC東京流通センター）
平成29年10月24日（火）・25日（水）
10:00～16:00 出展費35小間（予定）

大阪会場（マイドームおおさか）
平成29年12月12日（火）・13日（水）
10:00～16:00 出展費35小間（予定）

●セミナー1部11:00～12:00 2部14:00～15:00
※定員制のため事前申し込みが必要となります
※出展費35小間（予定）

●展示商談会の内容
●出展費コーナー
●相談コーナー

展示商談会・セミナー+現地交流会（地方開催） 各2日間

18日 各展示商談会 10:00～16:00 セミナー1部11:00～12:00 2部14:00～15:00

●展示商談会の内容
●出展費コーナー
●相談コーナー

28日 現地交流会

●現地交流会
●米、ライスセンター等を視察し、産地の生産者との意見交換を行う

【開催スケジュール】

札幌会場（札幌コンベンションセンター）
平成29年11月29日（水）・30日（木）

仙台会場（サンフェスタ）
平成29年11月22日（水）・23日（木）

さいたま会場（大宮ソニックシティ）
平成29年9月6日（水）・7日（木）

金沢会場（金沢流通会館）
平成29年12月7日（木）・8日（金）

名古屋会場（吹上ホール）
平成29年9月29日（金）・30日（土）

京都会場（みやこメッセ）
平成29年9月20日（水）・21日（木）

岡山会場（コンベックス岡山）
平成29年10月31日（火）・11月1日（水）

熊本会場（グランメッセ熊本）
平成29年10月3日（火）・10月4日（水）



産地向け募集説明会 の参加申込書

- 申し込み方法：①下記開催日の場所にご記入ください。
②本用紙に参加情報をご記入のうえ、FAXまたはメールでお申し込みください。
- 申し込み締切：参加希望会期前の1週間前までにお申し込みください。

【注意事項】

※事務局からお申し込みいただいたままの通信手段（FAXまたはメール）にて、後日受付完了のご連絡を差し上げます。
メールでお申し込みいただく場合、参加者名、ご家族氏名など下記の情報をお知らせください。
※席は多く用意しておりますが、定数に達した場合は受付終了とさせていただきます。あらかじめご了承ください。
※参加費は無料です。但し会場までの交通費は自己負担となりますので、あらかじめご了承ください。
※ご来場は、公共交通機関をご利用ください。 ※開催当日は、各料金をご持参ください。

○開催場所チェック欄

☐ 札幌会場 ☐ 6月23日（金） ☐ 仙台会場 ☐ 6月29日（木） ☐ さいたま会場 ☐ 6月20日（火） ☐ 東京会場 ☐ 6月27日（火）

☐ 金沢会場 ☐ 7月20日（木） ☐ 名古屋会場 ☐ 7月14日（金） ☐ 京都会場 ☐ 7月12日（水） ☐ 大阪会場 ☐ 7月11日（火）

☐ 岡山会場 ☐ 7月24日（月） ☐ 熊本会場 ☐ 7月5日（水）

※一時的に会場が変更される場合があります。
あらかじめご了承ください。

○参加者申し込み記入欄

会社・団体名	フリガナ		
住所	〒	-	）
電話番号	（	）	FAX番号（
参加者	名	（	）
		携帯電話番号（	）
		メールアドレス	

※ご記入いただいた個人情報は、本マツチングフェア事務局の記録として保存いたします。

【お問い合わせ】
株式会社 グレイブ・エス・ピー
米マツチングフェア2017事務局：東京、小森
〒113-0034 東京都文京区湯島2-12-5 湯島ビル3F
Tel: 03-3816-0672 Fax: 03-3816-0708

※マツチングフェア2017 事務局 <https://kome-matching.com>

FAXにてお申し込みください
送信先FAX
03-3816-0708

●メールで申し込みには
kome-matching@grainap.co.jp

中食・外食事業者等の皆様向けパンフレット

業務用途への安定取引に向けた

米マッチングフェア2017

産地
大規模生産法人、農協等

実需者
中食・外食事業者等

※必ず事前登録を！
中食・外食事業者等の皆様へ

【開催時期】
平成29年9月～平成30年2月

【開催場所】 全国10か所（11回開催）

札幌、仙台、さいたま、東京（2回）、金沢、名古屋、京都、大阪、岡山、熊本

家庭内での米の消費が減る一方で、中食・外食等における米の需要は伸びており、このような業務用途の米は、今後も堅固な需要が見込まれます。

平成30年度産米から行政による生産数量目標の配分がなくなると、今後一層、米産地の法人や農協等がユーザーである中食・外食事業者等と結びつき、当該事業者のニーズに応じた生産を行い、複数年契約や播種前契約を締結するなど安定した取引につなげていくことが重要です。

このような取引の拡大に向けて、業務用途への安定取引に取り組みたい米産地と中食・外食事業者等とのマッチングを行う「米マッチングフェア2017」を全国各地で開催します。

皆様、ぜひこのマッチングイベントに参加し、安定した米の供給先を開拓しませんか？

※本イベントは、農林水産省農産物流通課（〒100-8508 東京都千代田区千代田1-1-1）が主催するもので、農産物流通課の委託を受けた株式会社グレイン・エス・ピーが運営しています。

お問い合わせ先
株式会社グレイン・エス・ピー
〒115-0054 東京都文京区湯島2-12-5 湯島ビル3F
Tel. 03-3415-0872 Fax. 03-3415-0106
E-mail: kono.matching@graynp.jp

米マッチングフェア2017

展示商談会・セミナーのご案内

展示商談会・セミナー（東京・大阪） 各2日間

【開催スケジュール】

東京会場 TRC東京流通センター（東京都大田区平和島6-1-1）

平成29年10月24日（火）・25日（水）

東京会場 TRC東京流通センター（東京都大田区平和島6-1-1）

平成30年2月6日（火）・7日（水）

大阪会場 マイドームおおさか（大阪府大阪市中央区本町橋2-5）

平成29年12月12日（火）・13日（水）

各地 展示商談会 10:00～16:00（売り手約35ブース/日）

- 展示商談会の内容
- 産地コーナー（産地・産地のコーナーを設け）
 - 出展紹介コーナー（出展者に自社の米産地、試食等）

セミナー 1部 11:00～12:00 2部 14:00～15:00（各100名）

- セミナー
- 産地と実需者による事前契約、複数年契約の締結等、長期的な取引を目的に開催する展示商談会です。本主題を重点的に取り上げる方々のみ参加を希望しております。
 - 本主題は、参加費は無料です。なお、ホームページにて随時、最新情報をアップしますので、ぜひご覧ください。



展示商談会（東京）



展示商談会（大阪）

展示商談会に参加される方へ

本主題と実需者による事前契約、複数年契約の締結等、長期的な取引を目的に開催する展示商談会です。本主題を重点的に取り上げる方々のみ参加を希望しております。

来場される
中食・外食
事業者等の
皆様へ

内容

展示商談会・セブナーの来場申込書

交流会(地方8ヶ所)

札幌 札幌コンベンションセンター (北海道札幌市白石区東札幌6条1丁目1-1)

平成29年11月29日(水)・30日(木)

仙台会場 サンフエスタ (宮城県仙台市若林区野町2丁目15-2)

平成29年11月22日(水)・23日(木)

さいたま会場 大宮ソニックシティ (埼玉県さいたま市大宮区桜木町1-7-5)

平成29年9月6日(水)・7日(木)

金沢会場 金沢流通会館 (石川県金沢市問屋町2丁目61番)

平成29年12月7日(木)・8日(金)

名古屋金場 吹上ホー儿 (愛知県名古屋市千種区吹上, 2・6・3)

平成29年9月29日(金)・30日(土)

京都会場 みよこメッセ (京都府京都市左京区岡崎成徳寺町9-1)

平成29年9月20日(水)・21日(木)

岡山金場 コンベックス岡山 (岡山県岡山市北区大畑675)

平成29年10月31日(火)・11月1日(水)

記本全場 グランメッセ熊本 (熊本県上埴郡嘉穂町福岡1010)

平成29年10月3日(火)・10月4日(水)

18日 各展示商談会 10:00~16:00 (売り手約25ブース/日)

セブナ－1部 11:00~12:00 2部 14:00~15:00

一、小引

- 事前契約の成
豊富な経験を

現地交流会 10:00~16:00 50名 (1日目の開催地からバスで現地へ移動します)

● 会 展 地 現

現地の圃場、ライスセンサー等を見学し、現地の生産者や農協関係者等との意見交換を行い取引の商談を進めていきます。

株式会社 グレイン・エス・ピー

米マッチングフェア2017事務局：末田、小林

F113-0034 東京都文京区湯島2-12-5 湯島ビルD3F
Tel: 03-3818-0673 Fax: 03-3818-0709

●メールで申し込める場合には

kome-matching@grainsp.co.jp

© 2017  <https://kome-matching.com>

[illegible]

トラスにてお出しください。

送信先FAX

03-3816-0708

①下記開催日の会場毎に

人ください。(複製可)

奥グレイン・イス・ビー
[申し込み専用]

未帰希望金額の相償日の1
期：返したまま返還の場合3月

清华大学出版社

電話番号	()
FAX番号	()
メール・アドレス	
住所	()

※お問い合わせ先は、お問い合わせ先欄に記入してください。お問い合わせ先が不明な場合は、お問い合わせ先を記入してください。

一、十、五、令、然、恒、厚、德、田、口、()、要、之、主、世、位、呼、聖、神、代、李、

[illegible]

※事務局からお申し込みいただきました通信手段(FAXまたはメール)にて、開題日の1週間前、メールでお申し込みいただく場合、受講者名、ご連絡先など下記の内容を必ず記載してください。

※展覧会開演の会場には、自由にお入りいただけますが、セミナー会場、現地交通会は密着に順で締め切らせていただく場合があります。あらかじめご了承ください。

※参加費は無料です。但し会場までの交通費は自己負担をお願いいたします。また、地方開催する方は、宿泊等、自己負担となりますので、あらかじめご了承ください。

※ご来場は、公共交通機関をご利用ください。 ※開催当日は、名刺状をご利用ください。

飼料用米を活用した畜産物のブランド力強化を進めるため、飼料用米を生産する農家と連携しながら、従来の畜産物より付加価値を向上させて飼料用米活用畜産物を販売している畜産事業者を表彰する「飼料用米活用畜産物ブランド日本一コンテスト」が開催されます。

飼料用米活用畜産物ブランド 日本一コンテストを開催!!

田んぼ発



お米で育った畜産物

※ロゴマークを全国に普及する取組を行っています!!

募集中! 平成29年8月~11月末

飼料用米を活用した畜産物のブランド化による販売力向上等の取組を実践している畜産事業者を表彰し、広く紹介するため「飼料用米活用畜産物ブランド日本一コンテスト」を開催します。

●応募について (詳しくは応募用紙を参照下さい)

- ・飼料用米を活用した畜産物をブランド化し販売している畜産事業者
- ・飼料用米の給餌割合が一定以上であること 等

※ 応募様式等詳細は以下HPでもご覧いただけます。

●開催スケジュール

- ・ 応募期間 平成29年8月~11月末日
- ・ 審査委員会 平成30年1月~2月
- ・ 表彰式 平成30年3月上旬(東京都内)

●褒賞

- ・ 農林水産大臣賞 ・ 政策統括官賞
- ・ 全国農業協同組合中央会 会長賞
- ・ 公益社団法人中央畜産会 会長賞



●応募先及びお問い合わせ先

主催者：一般社団法人日本養豚協会 (担当、山梨・倉本)
住 所：〒151-0053 東京都渋谷区代々木2-27-15 高栄ビル2階

連絡先：TEL 03 (3370) 5473 FAX 03 (3370) 7937
メール：yamanashi@pig-pins.com (問い合わせ先等)
H P：飼料用米活用畜産物ブランド日本一コンテスト アドレス
→ <http://okome-sodachi.jp/index.html>